

## はじめに

本審議会は、平成21年3月19日に木更津市教育委員会から「木更津市立小学校及び中学校の適正規模及び本市域における適正配置のあり方に関する事項について」の諮問（資料編「諮問書（写）」参照。）を受けました。

また、この諮問に際し、「将来にわたって、学校教育の充実を図っていくため、本市教育環境の質の低下を招くことのないよう、概ね次の事項について具体的検討」を求められました。

- ① 学校間の児童生徒数の格差とその拡大が、教育条件の不均一化を進行させることになることから、学校の適正な規模等について議論すること。
- ② 市街地と周辺地域における教育環境について、学校予定地の活用も絡め、学校の適正な配置のあり方について議論すること。
- ③ 厳しい財政状況の中で、市内31校の維持管理運営に加え、特に学校施設の耐震化対策は、喫緊の課題となっていることから、これらの現状を踏まえ、議論すること。

そして、平成22年3月までに、児童生徒数が急増し早急な対応が求められている新市街地について中間答申をまとめ、その上で、平成23年2月までに、最終答申をまとめるというものです。

本審議会では、この諮問を受け、1年間という非常に厳しい時間の中で、中間答申を取りまとめるため、これまでに6回の審議会を開催し、木更津市立小中学校の現状及び課題の整理、小規模な学校及び大規模な学校のメリット・デメリットの整理及び市街地・新市街地の小中学校18校\*の配置状況などについて審議を重ね、諮問事項の具体的な方策等について検討を行ってきました。

今般、本審議会の結論として「木更津市立小学校及び中学校の適正規模及び本市域における適正配置のあり方について～教育都市きさらづの実現に向けて～（中間答申）」を取りまとめましたので、木更津市教育委員会へ答申します。

平成22年2月10日

木更津市立小中学校適正規模等審議会

会 長 **佐伯 康子**

※小学校11校（木更津第一・木更津第二・西清・東清・南清・清見台・祇園・波岡・畑沢・請西・八幡台）  
中学校7校（木更津第一・木更津第二・木更津第三・太田・畑沢・波岡・清川）

# I 本市における小中学校の規模等の現状

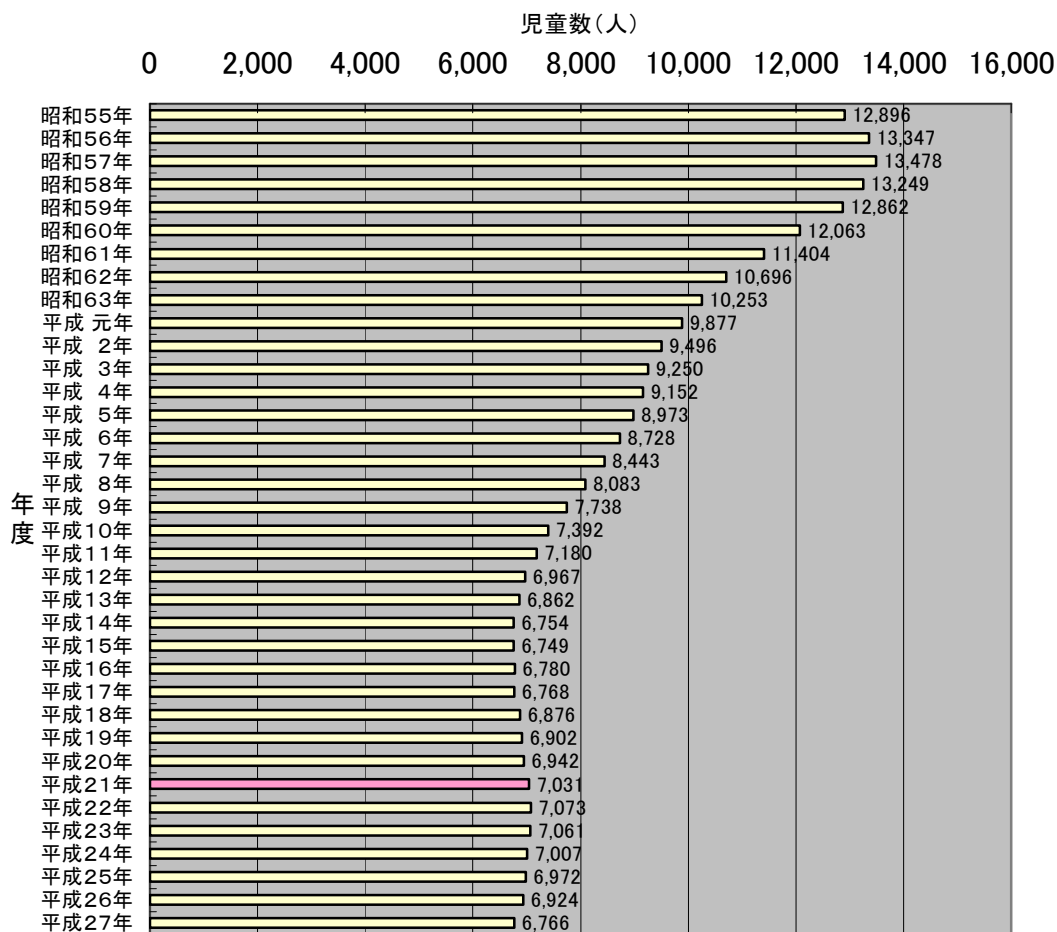
## 1 年度別児童・生徒数の推移

まず、木更津市の児童生徒数の推移をみると、児童数は昭和57年5月の13,478人をピークに平成15年まで減少を続け、平成15年5月現在6,749人で、ピーク時の50.1%となりました。その後微増を続け、平成21年には7,031人で、平成15年と比較して4.2%の増加となっています。生徒数は昭和60年5月の6,967人をピークに平成20年まで減少を続け、平成20年5月には3,232人で、ピーク時の46.4%となりました。平成21年5月現在、3,332人で、平成20年度より100名増えています。

また、今後の児童生徒数の推移では、住民基本台帳によれば、平成27年度までをみると児童数はやや減少傾向、生徒数はやや増加傾向と予測されています。

ただし、今年度の就学前児童数(0歳から5歳)の推移をみると、5月1日現在6,766人でしたが、10月1日現在には6,819人となり、5か月で約50人増加している状況ですので、児童数は今後増加傾向に転じることも考えられます。

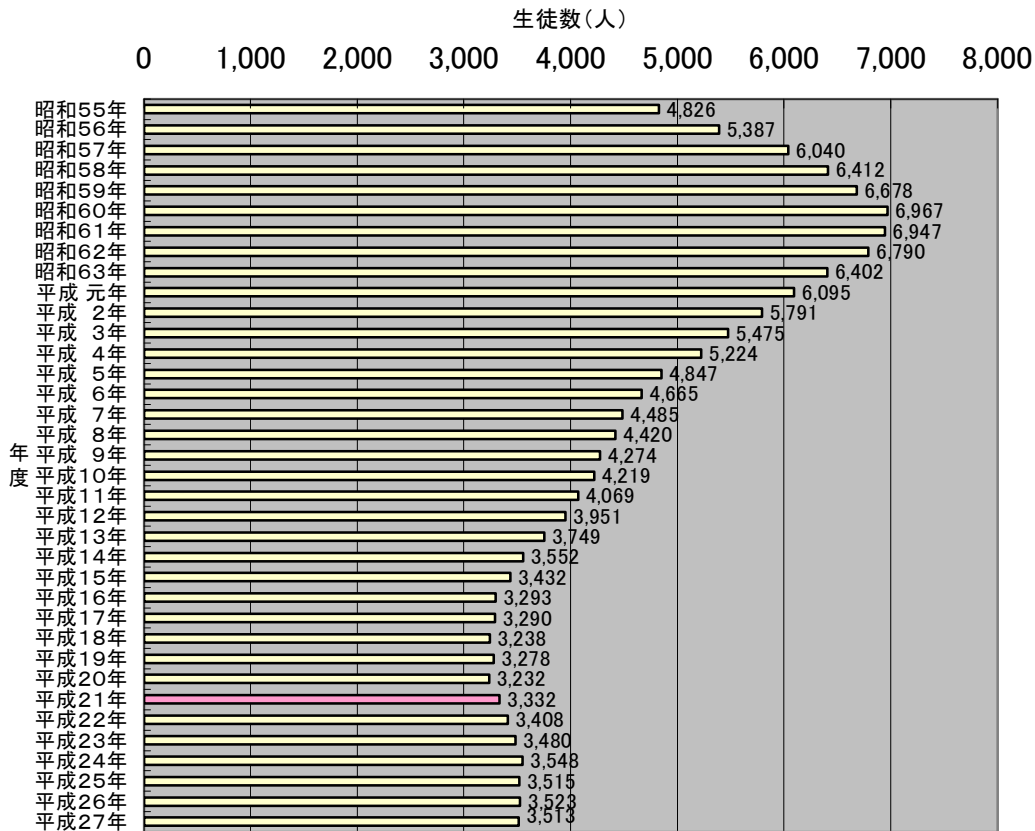
小学校児童数推移



※ 平成21年度までは各年5月1日現在の人数。

※ 平成22年度以降は住民基本台帳による推計。

### 中学校生徒数推移



※ 平成21年度までは各年5月1日現在の人数。

※ 平成22年度以降は住民基本台帳による推計。

## 2 学校別児童・生徒数の推移

次に、学校別児童生徒数の推移をみると、新市街地が形成された人口急増地区の学校では児童生徒数の急増が見られるものの、市街地ではやや横ばいで、市街地・新市街地以外の学校では児童生徒数の減少傾向が見られます。

近年の人口急増地区としては、請西南地区、請西東地区、羽鳥野地区、ほたる野地区が挙げられ、これらの地区を学区に含む請西小学校、八幡台小学校、南清小学校の児童数は急激に増加しています。今後も、人口急増地区を抱える小学校の児童数は増加が予測され、これらの小学校の児童が進学する木更津第二中学校、太田中学校、波岡中学校、清川中学校の生徒数も増加する見込みです。

平成16年度には、児童生徒数が減少する学校がある一方で、宅地開発の進展により児童生徒数が増え、教室不足をきたす恐れのある学校があるといった学校間の不均衡に対応するため、「木更津市立小学校及び中学校通学区域審議会」が設置され、平成18年4月1日から一部小中学校の通学区域の見直しが行われました。対象校は、木更津第二小学校、南清小学校、清見台小学校、波岡小学校、畑沢小学校、請西小学校、木更津第二中学校、太田中学校、清川中学校で、平成18年度以降の児童生徒数の推移に変化が見られる学校があるものの、請西小学校のように、通学区域を一部清見台小学校へ編入したにもかかわらず、児童数の減少がそれほどみられない学校もあります。

A. 市街地・新市街地の18校の児童・生徒数推移表

表 1

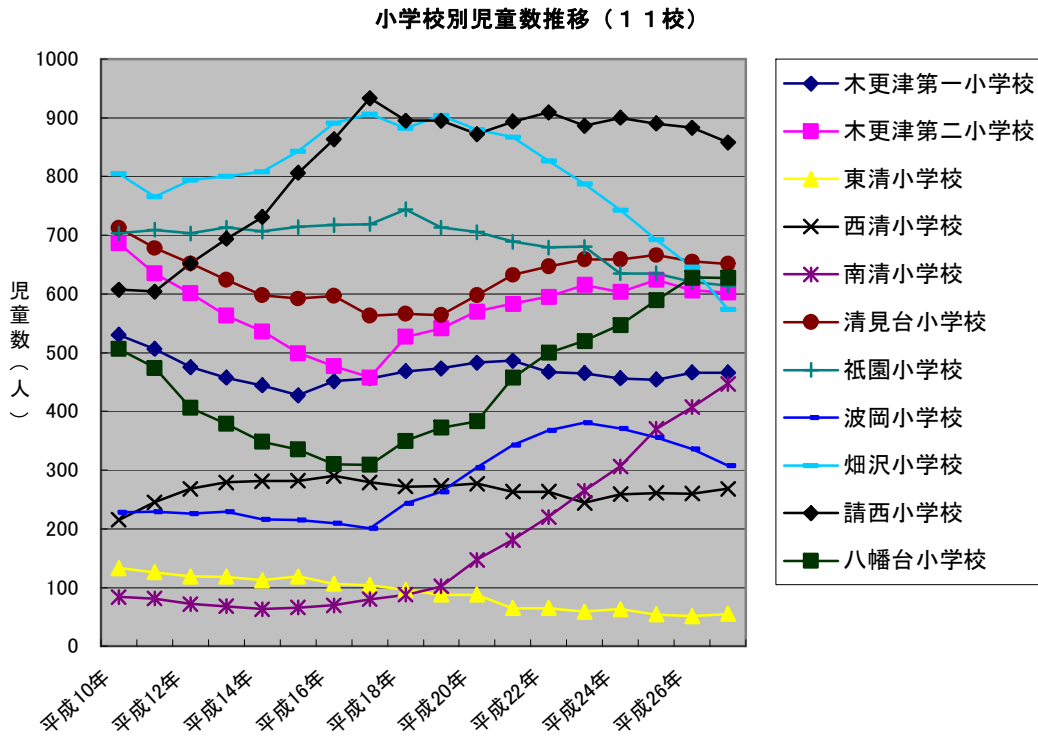
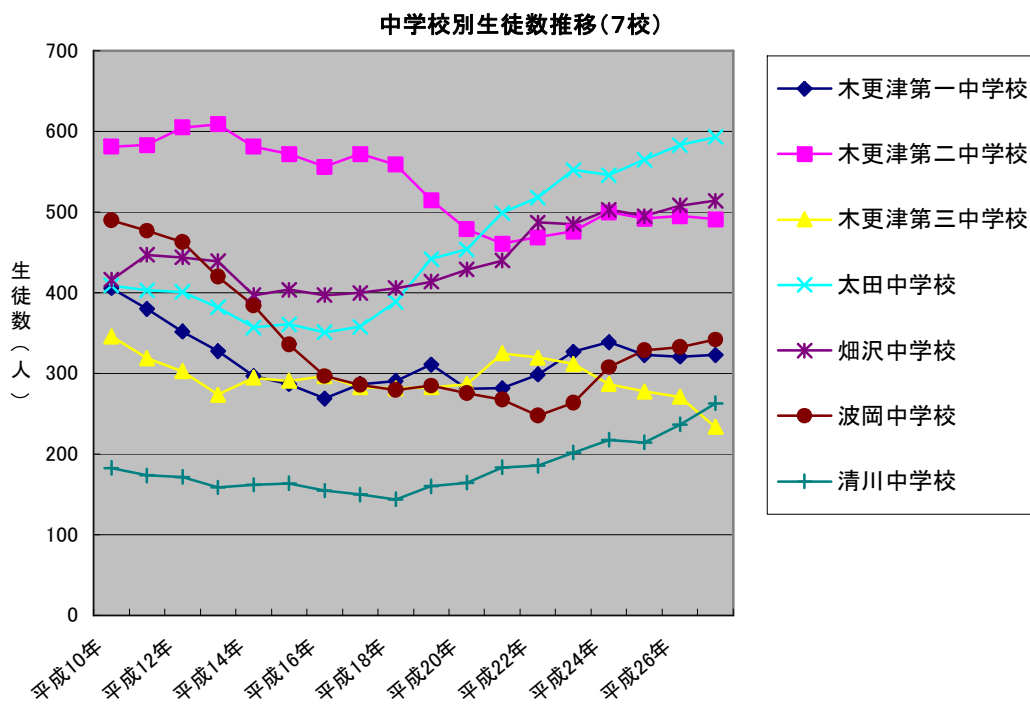


表 2



B. 市街地・新市街地以外の13校の児童・生徒数推移表

表 3

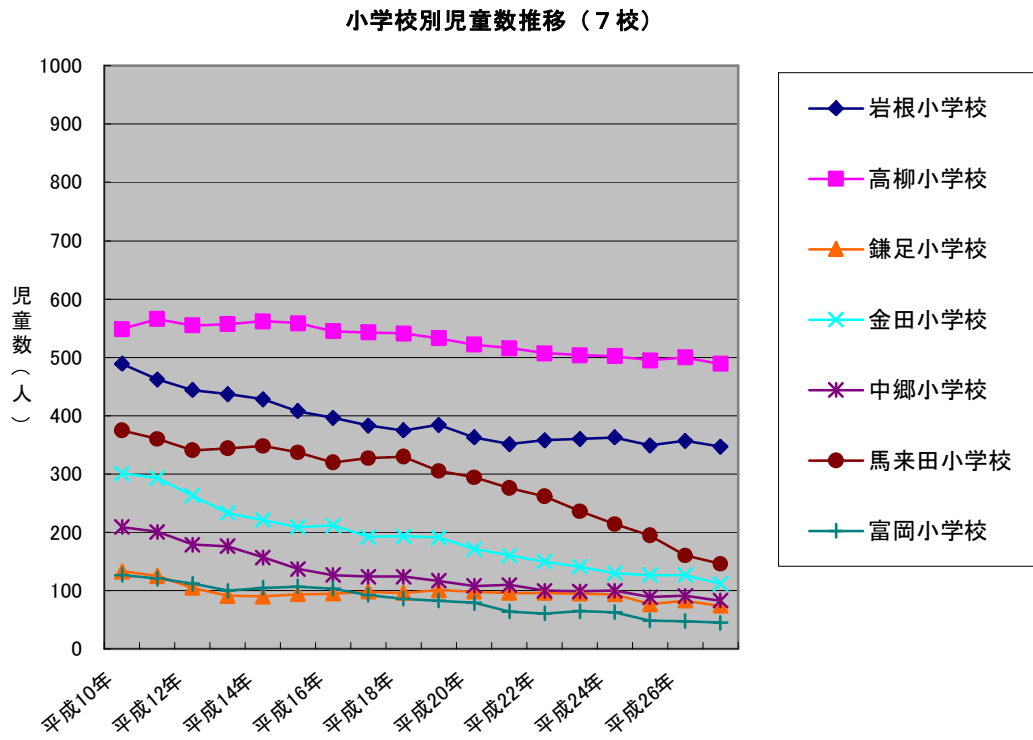
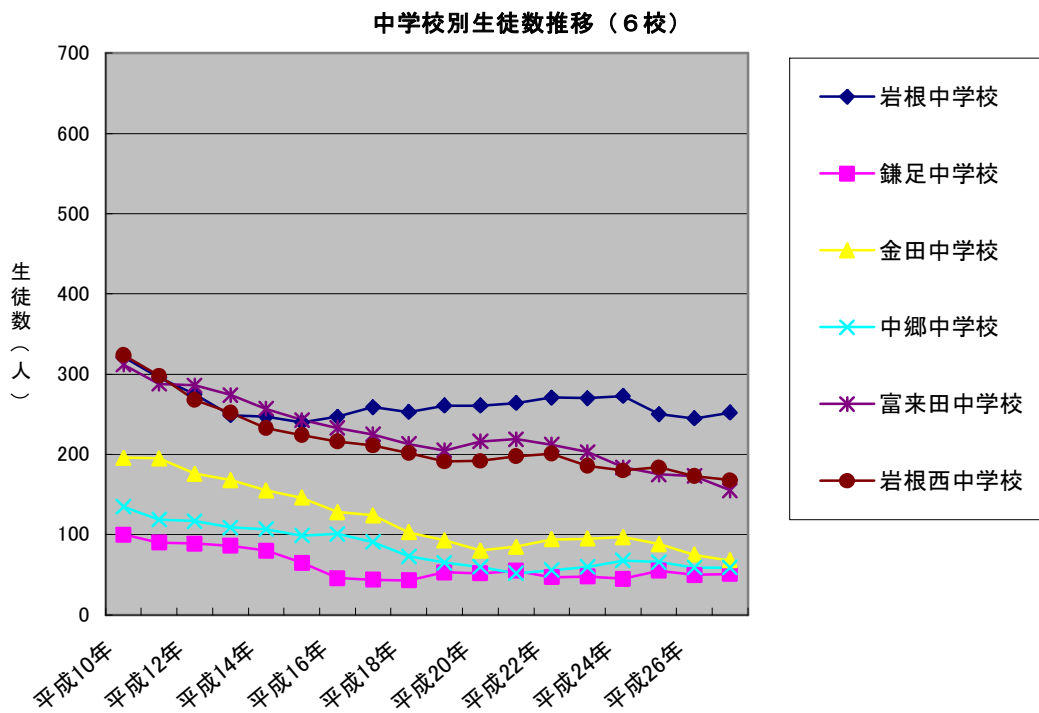


表 4



### 3 学校別学級数の推移

次に、木更津市立小中学校の学級数をみると、小学校はピーク時の昭和56年・昭和57年の356学級から平成21年には272学級、中学校はピーク時の昭和61年の178学級から平成21年には126学級に減少しており、ピーク時と比較して小学校は76.4%、中学校は70.8%となっています。

小中学校における学級数は、児童生徒数の推移に概ね比例しており、児童生徒数の急増が予測される八幡台小学校や南清小学校、太田中学校は学級数も増加し、児童生徒数の減少が予想される畑沢小学校や木更津第三中学校は学級数も減少する見込みです。

今後の学級数の動向も、児童生徒数によって学校間に大きな差が生じるものと予測されます。

#### A. 市街地・新市街地の18校の学級数推移表

※特別支援学級数を含む

表 1

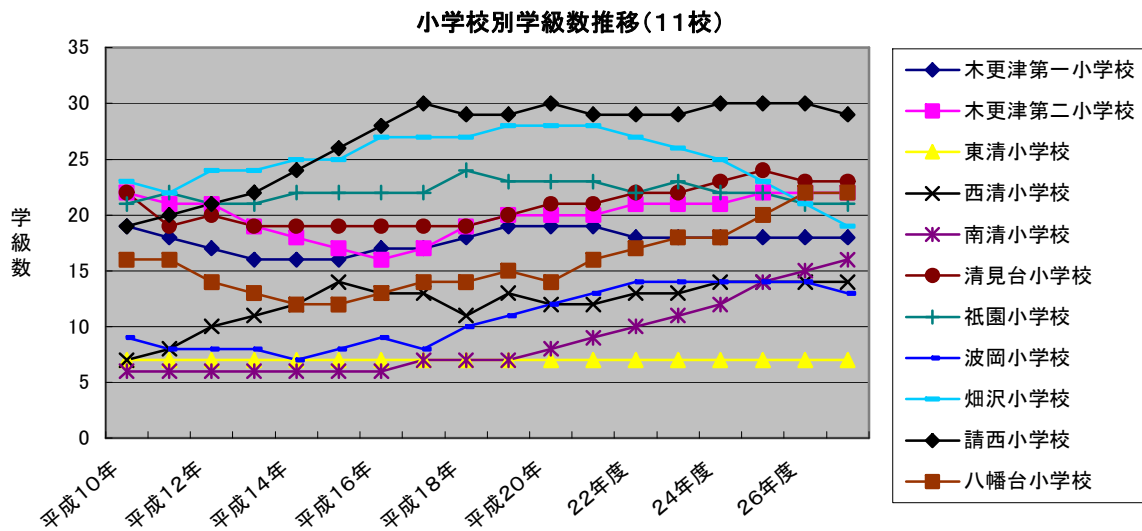
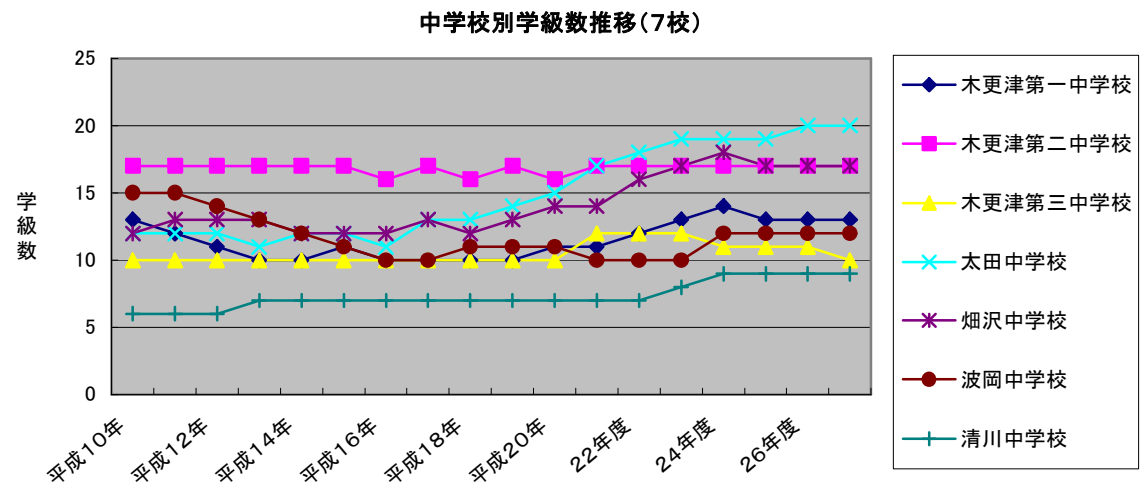


表 2



B. 市街地・新市街地以外の13校の学級数推移表

※特別支援学級数を含む

表 3

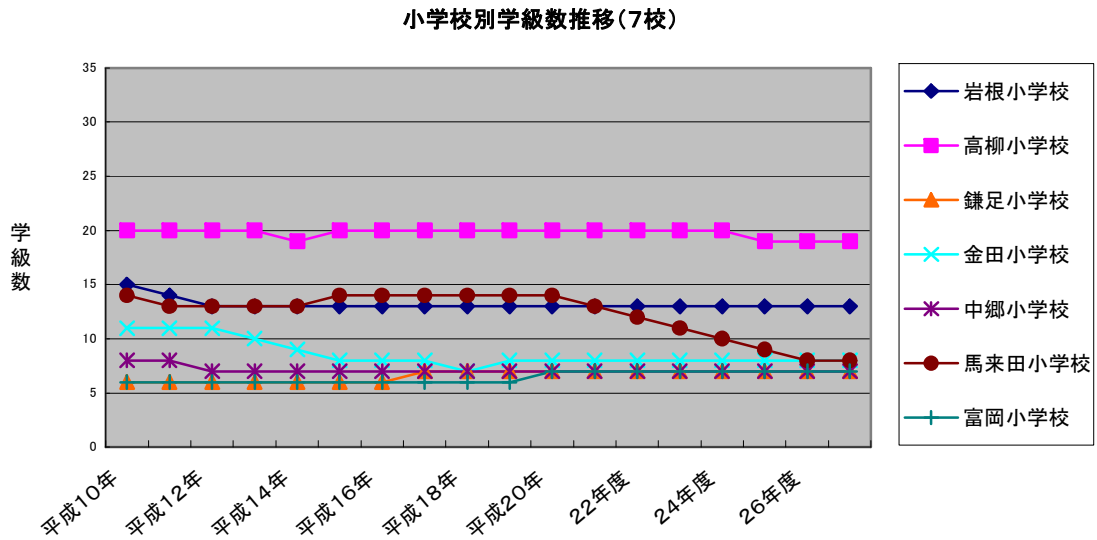
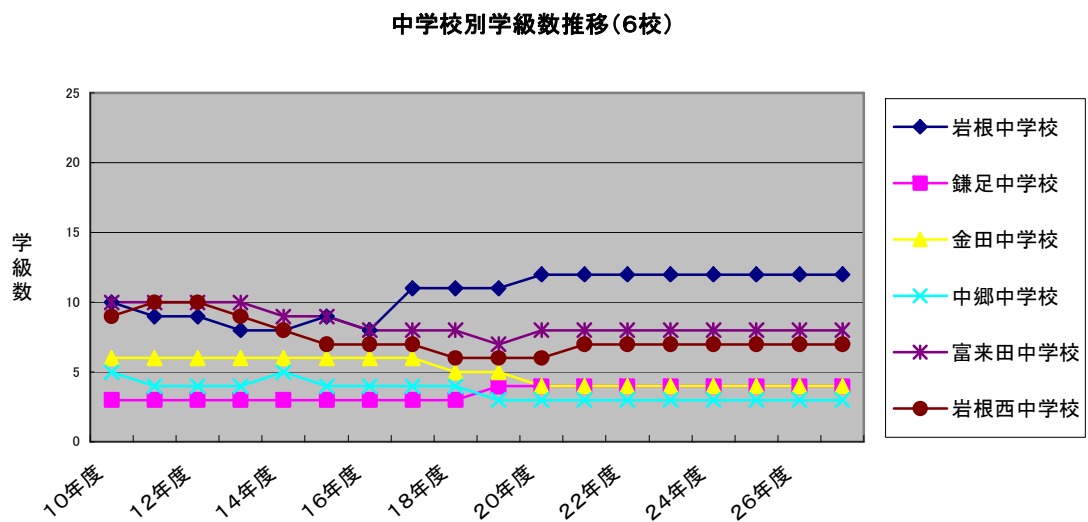


表 4



学校別児童数・学級数推移 ※平成21年度までは、各5月1日現在数値であり、平成22年度以降は、平成21年5月1日現在の住民基本台帳からの推計値

		S55	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9
木一小	児童数	1,224	1,233	1,199	1,109	1,036	928	843	788	738	727	726	722	725	724	693	663	600	560
	学級数	35	34	33	32	31	27	26	24	23	23	24	24	25	24	24	23	22	21
木二小	児童数	1,109	1,051	1,088	1,047	1,040	973	963	913	892	889	831	824	782	786	762	767	733	730
	学級数	28	26	28	27	27	25	25	25	25	26	25	25	25	25	25	25	25	24
東清小	児童数	410	397	373	343	327	297	260	243	223	205	187	162	150	147	149	148	145	148
	学級数	12	12	11	11	11	9	8	8	7	7	6	6	6	6	6	7	7	7
西清小	児童数	566	580	547	537	573	489	477	456	403	403	382	371	355	339	303	285	250	239
	学級数	17	17	16	15	16	14	14	14	14	14	13	13	13	13	12	12	10	9
南清小	児童数	116	135	146	149	144	138	135	124	123	112	115	110	109	108	106	100	97	91
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
清見台小	児童数	1,411	1,336	1,310	1,201	1,180	1,107	1,051	984	921	857	796	799	842	828	786	776	760	753
	学級数	34	32	32	30	29	29	28	27	25	24	24	24	24	24	24	25	23	23
祇園小	児童数	1,543	1,583	1,575	1,503	1,380	1,262	1,157	1,036	984	907	865	825	832	797	766	736	761	718
	学級数	39	39	38	36	33	30	28	26	26	24	24	24	24	23	22	20	21	21
岩根小	児童数	1,135	1,102	1,066	1,036	970	917	867	818	778	749	722	697	676	632	616	599	546	511
	学級数	29	28	26	26	25	24	24	23	22	22	21	19	20	19	19	19	16	15
高柳小	児童数	1,381	1,351	1,291	1,239	1,158	1,111	1,049	991	947	894	826	755	711	702	687	642	615	575
	学級数	34	33	31	30	29	28	27	26	24	24	22	21	20	20	21	20	20	20
波岡小	児童数	923	885	956	1,001	991	898	809	709	627	547	448	405	371	354	316	284	274	243
	学級数	23	23	24	26	26	24	22	20	18	17	15	14	13	14	12	12	11	10
鎌足小	児童数	236	245	254	267	274	260	234	221	203	193	182	179	185	173	169	177	164	154
	学級数	7	8	9	8	9	9	8	8	7	7	6	6	6	6	6	6	6	6
金田小	児童数	452	445	449	462	443	416	407	382	375	372	377	390	389	391	381	370	364	334
	学級数	13	13	13	13	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
中郷小	児童数	272	266	269	281	271	270	266	263	259	263	269	274	263	266	265	239	223	209
	学級数	10	9	9	9	9	10	10	10	9	9	10	12	11	10	10	9	8	7
馬来田小	児童数	559	596	599	603	602	567	557	539	548	551	534	523	515	483	463	427	412	396
	学級数	16	17	18	18	18	17	16	16	17	18	18	18	17	16	15	14	14	15
富岡小	児童数	141	142	143	154	150	151	149	142	136	124	124	113	104	107	115	124	114	120
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
畑沢小	児童数	767	758	724	680	656	648	626	623	686	729	773	811	852	876	865	860	812	802
	学級数	19	20	19	18	18	18	18	18	19	21	21	23	25	25	25	24	24	24
請西小	児童数	651	902	978	1,040	1,052	1,014	955	871	840	798	752	698	657	646	632	602	591	581
	学級数	17	23	24	25	26	26	25	23	23	23	22	21	21	20	19	18	17	17
八幡台小	児童数		340	511	597	615	617	599	593	570	557	587	592	634	614	654	644	622	574
	学級数		10	13	17	17	16	16	17	17	16	18	19	18	18	20	20	19	18
小学校	児童数	12,896	13,347	13,478	13,249	12,862	12,063	11,404	10,696	10,253	9,877	9,496	9,250	9,152	8,973	8,728	8,443	8,083	7,738
	学級数	345	356	356	353	348	330	319	309	300	299	293	293	292	287	284	278	266	261



学校別児童数・学級数推移 ※平成21年度までは、各5月1日現在数値であり、平成22年度以降は、平成21年5月1日現在の住民基本台帳からの推計値

		H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
木一小	児童数	530	506	475	457	444	427	451	456	468	473	483	486	467	465	456	454	466	466
	学級数	19	18	17	16	16	16	17	17	18	19	19	19	18	18	18	18	18	18
木二小	児童数	686	635	601	563	536	499	477	458	527	541	570	583	595	615	603	624	606	602
	学級数	22	21	21	19	18	17	16	17	19	20	20	20	21	21	21	22	22	22
東清小	児童数	133	126	119	118	112	119	106	104	96	88	88	65	65	59	63	54	51	55
	学級数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
西清小	児童数	215	245	268	279	281	282	290	279	272	273	277	263	263	244	259	261	260	268
	学級数	7	8	10	11	12	14	13	13	11	13	12	12	13	13	14	14	14	14
南清小	児童数	84	81	72	68	63	66	70	80	88	102	147	181	220	265	306	370	407	447
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	7	7	7	8	9	10	11	12	14	15	16
清見台小	児童数	712	678	652	624	598	592	597	563	566	564	598	632	647	659	659	666	655	651
	学級数	22	19	20	19	19	19	19	19	19	20	21	21	22	22	23	24	23	23
祇園小	児童数	703	709	703	713	706	714	717	719	744	713	705	689	679	680	635	635	620	614
	学級数	21	22	21	21	22	22	22	22	24	23	23	23	22	23	22	22	21	21
岩根小	児童数	489	462	444	437	428	408	396	383	375	384	363	351	358	360	363	349	357	347
	学級数	15	14	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
高柳小	児童数	549	566	555	557	562	559	545	543	541	533	522	516	507	504	502	495	500	489
	学級数	20	20	20	20	19	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	19	19	19
波岡小	児童数	228	229	226	229	216	215	209	201	243	263	304	342	368	381	371	356	336	308
	学級数	9	8	8	8	7	8	9	8	10	11	12	13	14	14	14	14	14	13
鎌足小	児童数	133	125	105	91	90	94	95	98	96	101	98	96	96	95	94	77	83	74
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
金田小	児童数	301	293	263	233	221	209	212	192	193	191	171	160	150	141	130	127	127	112
	学級数	11	11	11	10	9	8	8	8	7	8	8	8	8	8	8	8	8	8
中郷小	児童数	209	201	179	176	157	137	127	124	124	117	108	110	100	99	100	89	91	83
	学級数	8	8	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
馬来田小	児童数	375	360	341	344	348	337	320	327	330	305	294	276	262	236	214	195	160	146
	学級数	14	13	13	13	13	14	14	14	14	14	14	13	12	11	10	9	8	8
富岡小	児童数	127	121	112	100	105	107	104	93	86	83	79	64	61	65	63	49	48	45
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	7	7	7	7	7	7	7	7
畑沢小	児童数	805	765	794	800	808	843	891	906	882	904	880	867	826	787	742	692	646	574
	学級数	23	22	24	24	25	25	27	27	27	28	28	28	27	26	25	23	21	19
請西小	児童数	607	604	652	694	731	806	863	933	895	895	872	893	909	886	900	890	883	858
	学級数	19	20	21	22	24	26	28	30	29	29	30	29	29	29	30	30	30	29
八幡台小	児童数	506	474	406	379	348	335	310	309	350	372	383	457	500	520	547	589	628	627
	学級数	16	16	14	13	12	12	13	14	14	15	14	16	17	18	18	20	22	22
小学校	児童数	7,392	7,180	6,967	6,862	6,754	6,749	6,780	6,768	6,876	6,902	6,942	7,031	7,073	7,061	7,007	6,972	6,924	6,766
	学級数	251	245	245	241	241	246	251	256	259	267	270	272	274	275	276	278	276	273

学校別生徒数・学級数推移 ※平成21年度までは、各5月1日現在数値であり、平成22年度以降は、平成21年5月1日現在の住民基本台帳からの推計値

		S55	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9
木一中	生徒数	567	631	731	749	748	760	684	666	597	563	534	487	480	457	460	446	423	409
	学級数	16	17	19	19	19	19	18	17	16	15	16	15	14	14	14	13	13	13
木二中	生徒数	727	652	773	895	978	1,051	1,057	1,044	1,001	924	894	832	787	706	689	668	652	611
	学級数	18	16	20	22	24	25	25	25	24	24	23	23	22	20	19	19	19	18
木三中	生徒数	970	1,002	1,047	1,073	1,104	832	670	644	582	527	471	447	395	363	353	355	358	337
	学級数	24	24	25	26	27	21	17	17	15	14	13	13	12	11	11	11	11	10
岩根中	生徒数	888	994	748	637	631	650	621	602	569	549	502	487	450	407	358	357	347	343
	学級数	22	24	19	16	17	17	16	16	16	16	14	15	14	13	11	11	11	11
鎌足中	生徒数	93	96	121	110	114	122	146	146	147	129	135	115	104	85	87	84	92	87
	学級数	3	3	3	3	3	4	5	5	5	4	5	4	4	3	3	3	3	3
金田中	生徒数	183	195	227	226	217	226	230	230	223	235	220	204	194	184	186	188	192	203
	学級数	5	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
中郷中	生徒数	129	128	134	126	132	135	147	141	141	139	143	139	138	130	129	135	150	154
	学級数	5	5	5	4	4	5	6	5	5	5	6	6	6	5	5	5	6	6
富来田中	生徒数	279	308	342	346	369	393	410	412	378	393	381	390	356	350	349	347	340	324
	学級数	8	9	10	10	10	11	11	11	10	12	12	12	11	10	10	10	10	10
太田中	生徒数	606	648	667	693	725	757	731	718	696	647	612	558	569	526	498	448	434	415
	学級数	15	16	17	16	17	18	18	18	17	17	16	15	16	15	14	13	12	12
畑沢中	生徒数	384	733	894	625	413	406	377	380	351	369	357	374	383	389	395	390	419	408
	学級数	9	18	22	16	11	10	10	10	9	10	10	11	12	12	12	11	12	12
岩根西中	生徒数			356	519	547	518	530	487	485	455	429	389	372	345	323	313	314	324
	学級数			9	13	14	13	13	12	12	12	12	11	11	9	9	9	9	9
波岡中	生徒数				413	700	791	874	871	835	804	781	738	706	630	585	527	489	465
	学級数				10	17	19	21	21	20	20	20	20	19	17	16	14	13	13
清川中	生徒数						326	470	449	397	361	332	315	290	275	253	227	210	194
	学級数						8	12	12	11	10	9	9	9	9	8	7	6	6
中学校	生徒数	4,826	5,387	6,040	6,412	6,678	6,967	6,947	6,790	6,402	6,095	5,791	5,475	5,224	4,847	4,665	4,485	4,420	4,274
	学級数	125	137	155	161	169	176	178	175	166	165	162	160	156	144	138	132	131	129

学校別生徒数・学級数推移 ※平成21年度までは、各5月1日現在数値であり、平成22年度以降は、平成21年5月1日現在の住民基本台帳からの推計値

		H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
木一中	生徒数	406	380	352	328	297	287	269	287	291	311	281	282	299	327	339	323	321	323
	学級数	13	12	11	10	10	11	10	10	10	10	11	11	12	13	14	13	13	13
木二中	生徒数	581	583	605	609	581	572	556	572	559	515	479	461	469	476	500	492	495	491
	学級数	17	17	17	17	17	17	16	17	16	17	16	17	17	17	17	17	17	17
木三中	生徒数	346	319	303	274	295	291	297	283	282	283	287	325	320	312	287	278	271	234
	学級数	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	12	12	12	11	11	11	10
岩根中	生徒数	321	296	275	249	247	240	247	259	253	261	261	264	271	270	273	250	245	252
	学級数	10	9	9	8	8	9	8	11	11	11	12	12	12	12	12	12	12	12
鎌足中	生徒数	100	90	89	86	80	65	46	44	43	53	52	55	47	48	45	55	50	51
	学級数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4
金田中	生徒数	196	195	176	168	155	146	128	124	103	93	80	85	94	95	97	88	75	68
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	5	5	4	4	4	4	4	4	4	4
中郷中	生徒数	135	119	117	109	107	99	101	91	73	65	60	52	56	60	68	66	59	59
	学級数	5	4	4	4	5	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3
富来田中	生徒数	312	288	286	274	257	243	233	225	213	205	216	219	212	203	184	175	173	155
	学級数	10	10	10	10	9	9	8	8	8	7	8	8	8	8	8	8	8	8
太田中	生徒数	409	403	401	382	357	361	351	358	389	442	454	499	518	552	546	565	583	593
	学級数	12	12	12	11	12	12	11	13	13	14	15	17	18	19	19	19	20	20
畑沢中	生徒数	416	447	444	439	397	404	397	400	406	414	429	440	487	485	503	495	508	514
	学級数	12	13	13	13	12	12	12	13	12	13	14	14	16	17	18	17	17	17
岩根西中	生徒数	324	298	268	252	233	224	216	211	202	191	192	198	201	186	180	184	173	168
	学級数	9	10	10	9	8	7	7	7	6	6	6	7	7	7	7	7	7	7
波岡中	生徒数	490	477	463	420	384	336	297	286	280	285	276	268	248	264	308	329	333	342
	学級数	15	15	14	13	12	11	10	10	11	11	11	10	10	10	12	12	12	12
清川中	生徒数	183	174	172	159	162	164	155	150	144	160	165	184	186	202	218	215	237	263
	学級数	6	6	6	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	8	9	9	9	9
中学校	生徒数	4,219	4,069	3,951	3,749	3,552	3,432	3,293	3,290	3,238	3,278	3,232	3,332	3,408	3,480	3,548	3,515	3,523	3,513
	学級数	128	127	125	121	119	118	112	119	116	118	121	126	130	134	138	136	137	136

#### 4 学校別規模、施設、配置等の現状

次に、本市における小中学校の適正規模・適正配置を審議するため、各校の個別の現状と課題を以下のとおり整理しました。

なお、学級数の（ ）内は特別支援学級数で、内数で記載してあります。

22年度以降の特別支援学級数は、21年度と同数としています。

##### A. 市街地・新市街地の18校の現状 《小学校11校》

①木更津第一小学校								
児童数・学級数の推移	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	児童数	486	467	465	456	454	466	466
	学級数	19 (2)	18 (2)	18 (2)	18 (2)	18 (2)	18 (2)	18 (2)
施設関係	建設年度	耐震工事		就学可能学級数	余裕教室数			
	S30・31	実施済		27	8			
	余裕教室(普通教室に転用可能な教室)の活用状況							
	会議室、印刷室							
現状と課題	1 教室は足りているか	・27年度までは足りる見込みである。						
	2 敷地面積は十分か	・十分な運動場が確保できない。						
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。						
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道2km以内である。						
	5 将来的な児童数の展望は	・ほぼ横ばいと予想される。						
	6 学校の位置は適当か	・学区のほぼ中心部に位置している。						
	7 その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学区全域は中心市街地を形成している。</li> <li>・高速バス等交通の利便性向上に伴い勤労世帯が増加、マンション建設が進んでいる。</li> <li>・平成20年度校舎を改築。</li> </ul>						

②木更津第二小学校								
児童数・学級数の推移	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	児童数	583	595	615	603	624	606	602
	学級数	20 (2)	21 (2)	21 (2)	21 (2)	22 (2)	22 (2)	22 (2)
施設関係	建設年度	耐震工事		就学可能学級数	余裕教室数			
	S45・46・47・51	実施中		23	3			
	余裕教室(普通教室に転用可能な教室)の活用状況							
	算数教室兼児童会室、日本語指導教室、多目的室							
現状と課題	1 教室は足りているか	・27年度までは足りる見込みである。						
	2 敷地面積は十分か	・十分である。						
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。						
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道3km以内である。						
	5 将来的な児童数の展望は	・ほぼ横ばいと予想される。						
	6 学校の位置は適当か	・学区の北部に位置している。						
	7 その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学区は市街地に隣接し、商業・準工業地及び住宅地としての様相を呈している。</li> <li>・学区には国道幹線及びバイパス道路があり、交通量が極めて多い。</li> <li>・地域によっては、交通機関(バス)を利用する児童もある。</li> </ul>						

③東清小学校								
児童数・学級数の推移	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	児童数	65	65	59	63	54	51	55
	学級数	7 (1)	7 (1)	7 (1)	7 (1)	7 (1)	7 (1)	7 (1)
施設関係	建設年度	耐震工事		就学可能学級数	余裕教室数			
	S41・52・56	未実施		8	1			
	余裕教室(普通教室に転用可能な教室)の活用状況							
	会議室							
現状と課題	1 教室は足りているか	・27年度までは足りる見込みである。						
	2 敷地面積は十分か	・十分である。						
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。						
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道4km以内である。						
	5 将来的な児童数の展望は	・減少傾向と予想される。						
	6 学校の位置は適当か	・学区の北西部に位置している。						
	7 その他	・高速道路の整備に伴い、学区の交通量が増加している。 ・東清団地・市営住宅造成により人口が急増した時期を経て、現在は児童数の減少が進み、ピーク時の16%近くになっている。 ・建物敷地と運動場に借用地がある。 ・26年度から複式学級となる可能性がある。						

④西清小学校								
児童数・学級数の推移	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	児童数	263	263	244	259	261	260	268
	学級数	12 (2)	13 (2)	13 (2)	14 (2)	14 (2)	14 (2)	14 (2)
施設関係	建設年度	耐震工事		就学可能学級数	余裕教室数			
	S43・44・56	実施済		14	2			
	余裕教室(普通教室に転用可能な教室)の活用状況							
	少人数教室、資料室、多目的室							
現状と課題	1 教室は足りているか	・27年度までは足りる見込みである。						
	2 敷地面積は十分か	・狭隘のため、体育館の上にプールを設置しても十分な運動場が確保できない。						
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。						
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道4km以内である。						
	5 将来的な児童数の展望は	・ほぼ横ばいと予想される。						
	6 学校の位置は適当か	・学区の南部に位置している。						
	7 その他	・学区には国道16号線バイパス道路と旧道が並行して走り、交通量が多い。 ・近年は賃貸住宅や分譲住宅が増えつつある。 ・建物敷地と運動場に借用地がある。						

⑤南清小学校								
児童数・学級数の推移	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	児童数	181	220	265	306	370	407	447
	学級数	9 (1)	10 (1)	11 (1)	12 (1)	14 (1)	15 (1)	16 (1)
施設関係	建設年度		耐震工事		就学可能学級数		余裕教室数	
	S42・43・60		未実施		9		0	
	余裕教室(普通教室に転用可能な教室)の活用状況							
現状と課題	1 教室は足りているか	・22年度は特別教室の転用により足りるが、23年度から不足する見込みである。						
	2 敷地面積は十分か	・十分である。						
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。特別教室が不足している。						
	4 通学距離は適当か	・一部片道4kmを超える地域がある。(5km以内)						
	5 将来的な児童数の展望は	・大幅な増加が予想される。						
	6 学校の位置は適当か	・学区の北西部に位置している。						
	7 その他	・学区の一部が主要道路によって分断されている。 ・ほたる野地区の新市街地形成による人口増加に伴い、児童数が急増している。 ・児童数の急増に伴い、平成19年度にプレハブ校舎3教室を増設した。						

⑥清見台小学校								
児童数・学級数の推移	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	児童数	632	647	659	659	666	655	651
	学級数	21 (2)	22 (2)	22 (2)	23 (2)	24 (2)	23 (2)	23 (2)
施設関係	建設年度		耐震工事		就学可能学級数		余裕教室数	
	S45・46・56		実施済		27		6	
	余裕教室(普通教室に転用可能な教室)の活用状況							
	研修室、PTA室、低学年活動室、こころの教室、教材室、国際理解室兼児童会室、算数・社会資料室、6年活動室、5年活動室、倉庫							
現状と課題	1 教室は足りているか	・27年度までは足りる見込みである。						
	2 敷地面積は十分か	・十分である。						
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。						
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道2km以内である。						
	5 将来的な児童数の展望は	・ほぼ横ばいと予想される。						
	6 学校の位置は適当か	・学区の北部に位置している。						
	7 その他	・中心市街地から連続した市街地が形成されており、住宅に加え、学園、商業が一体化した地域である。 ・人口の流動が多い地域である。 ・建物敷地と運動場に借用地がある。						

⑦祇園小学校								
児童数・学級数の推移	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	児童数	689	679	680	635	635	620	614
	学級数	23 (2)	22 (2)	23 (2)	22 (2)	22 (2)	21 (2)	21 (2)
施設関係	建設年度	耐震工事		就学可能学級数	余裕教室数			
	S49・50・53・56	22年度実施予定		30	7			
	余裕教室(普通教室に転用可能な教室)の活用状況							
	PTA室、ランチルーム、ことばの教室、生活科ルーム、国際交流室、少人数指導室、第2家庭科室、低学年図書室							
現状と課題	1 教室は足りているか	・27年度までは足りる見込みである。						
	2 敷地面積は十分か	・十分である。						
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。						
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道2km以内である。						
	5 将来的な児童数の展望は	・減少傾向と予想される。						
	6 学校の位置は適当か	・学区のやや東部に位置している。						
	7 その他	・学区の大部分が宅地造成地であり、戸建住宅・社宅とも多い。 ・減少は見られるものの、児童数の多い学校である。						

⑧波岡小学校								
児童数・学級数の推移	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	児童数	342	368	381	371	356	336	308
	学級数	13 (2)	14 (2)	14 (2)	14 (2)	14 (2)	14 (2)	13 (2)
施設関係	建設年度	耐震工事		就学可能学級数	余裕教室数			
	S35・40・48・54	実施中		15	2			
	余裕教室(普通教室に転用可能な教室)の活用状況							
	教材室、多目的室							
現状と課題	1 教室は足りているか	・27年度までは足りる見込みである。						
	2 敷地面積は十分か	・十分である。						
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。						
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道4km以内である。						
	5 将来的な児童数の展望は	・今後数年は増加傾向にあるものの、その後は減少が予想される。						
	6 学校の位置は適当か	・学区のやや南西部に位置している。						
	7 その他	・昭和40年代からの相次ぐ団地造成により急速な宅地化が進行した。 ・通学区域見直しにより、平成19年度から畑沢4丁目・港南台1・2・5丁目が波岡小学校区となった。 ・建物敷地と運動場に借用地がある。						



⑨畑沢小学校								
児童数・学級数の推移	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	児童数	867	826	787	742	692	646	574
	学級数	28 (2)	27 (2)	26 (2)	25 (2)	23 (2)	21 (2)	19 (2)
施設関係	建設年度		耐震工事		就学可能学級数		余裕教室数	
	S53・54・H3		未実施		28		0	
	余裕教室(普通教室に転用可能な教室)の活用状況							
現状と課題	1 教室は足りているか	・27年度までは足りる見込みである。						
	2 敷地面積は十分か	・十分である。						
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。						
	4 通学距離は適切か	・学区全域が片道3.5km以内である。						
	5 将来的な児童数の展望は	・減少傾向と予想される。						
	6 学校の位置は適切か	・学区のやや南部に位置している。						
	7 その他	・学区は市南西部に位置し、君津市と隣接している。 ・畑沢土地区画整理事業の宅地造成に伴い、昭和53年4月に波岡小学校から分離し創設された。 ・減少傾向にあるものの、多数の児童を抱える学校である。						

⑩請西小学校								
児童数・学級数の推移	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	児童数	893	909	886	900	890	883	858
	学級数	29 (2)	29 (2)	29 (2)	30 (2)	30 (2)	30 (2)	29 (2)
施設関係	建設年度		耐震工事		就学可能学級数		余裕教室数	
	S54・56・H3・15		未実施		32		3	
	余裕教室(普通教室に転用可能な教室)の活用状況							
多目的室、研修室								
現状と課題	1 教室は足りているか	・27年度までは足りる見込みである。						
	2 敷地面積は十分か	・十分である。						
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。						
	4 通学距離は適切か	・学区全域が片道3km以内である。						
	5 将来的な児童数の展望は	・請西南の社会増を見込むと急増することが予想される。						
	6 学校の位置は適切か	・学区の北端に位置している。						
	7 その他	・児童増に伴い、木更津第二小学校から請西と真舟地区が、清見台小学校から太田地区が分離し、創設された。 ・児童の急増に伴い、平成14年度にプレハブ校舎7学級を建設した。 ・学区内に、児童数に影響を及ぼす社会増の予測が難しい地域がある。						



⑪八幡台小学校									
		年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
児童数・学級数の推移		児童数	457	500	520	547	589	628	627
		学級数	16 (2)	17 (2)	18 (2)	18 (2)	20 (2)	22 (2)	22 (2)
施設関係		建設年度	耐震工事		就学可能学級数		余裕教室数		
		S56・57・59		未実施		17		1	
		余裕教室(普通教室に転用可能な教室)の活用状況							
		学童保育、チャレンジルーム							
現状と課題	1 教室は足りているか	・23年度から不足する見込みである。							
	2 敷地面積は十分か	・十分である。							
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。							
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道2.5km以内である。							
	5 将来的な児童数の展望は	・増加傾向と予想される。							
	6 学校の位置は適当か	・学区の西部に位置している。							
	7 その他	・羽鳥野地区の転入世帯増加に伴い、人口が急増している。 ・学区内は急な坂道や細い道路が多い。 ・通勤時間帯の交通量が増加している。							

《中学校7校》

⑫木更津第一中学校									
		年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
生徒数・学級数の推移		生徒数	282	299	327	339	323	321	323
		学級数	11 (2)	12 (2)	13 (2)	14 (2)	13 (2)	13 (2)	13 (2)
施設関係		建設年度	耐震工事		就学可能学級数		余裕教室数		
		S43・44・50		実施済		12		1	
		余裕教室(普通教室に転用可能な教室)の活用状況							
		教材室、生徒会室							
現状と課題	1 教室は足りているか	・特別教室の転用により、27年度までは足りる見込みである。							
	2 敷地面積は十分か	・十分である。							
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール、武道場有り。							
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道3km以内である。							
	5 将来的な生徒数の展望は	・やや増加傾向と予想される。							
	6 学校の位置は適当か	・学区の中心部に位置している。							
	7 その他	・通学区域は木更津第一小学校学区と、西清小学校の一部学区である。 ・昭和56年度の学区再編により、朝日2・3丁目、長須賀が学区に編入された。							

⑬木更津第二中学校		年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
生徒数・学級数の推移	生徒数	461	469	476	500	492	495	491	
	学級数	17 (2)	17 (2)	17 (2)	17 (2)	17 (2)	17 (2)	17 (2)	
施設関係	建設年度	耐震工事		就学可能学級数	余裕教室数				
	S47・48・50・59	未実施		19	2				
	余裕教室(普通教室に転用可能な教室)の活用状況								
	特活室及び進路指導室、多目的室								
現状と課題	1 教室は足りているか	・27年度までは足りる見込みである。							
	2 敷地面積は十分か	・数値上は十分といえるが、敷地形状により十分な運動場が確保できない。							
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。							
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道3.5km以内である。							
	5 将来的な生徒数の展望は	・やや増加傾向と予想される。							
	6 学校の位置は適当か	・学区の北部に位置している。							
	7 その他	・通学区域は、木更津第二小学校学区と、請西小学校の一部学区である。 ・学校のすぐ下を国道16号線が通っており、おびただしい交通量である。 ・生徒の急増に伴い、昭和58年度にプレハブ校舎6学級を建設した。							

⑭木更津第三中学校		年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
生徒数・学級数の推移	生徒数	325	320	312	287	278	271	234	
	学級数	12 (2)	12 (2)	12 (2)	11 (2)	11 (2)	11 (2)	10 (2)	
施設関係	建設年度	耐震工事		就学可能学級数	余裕教室数				
	S41・46・47・48	22年度実施予定		18	6				
	余裕教室(普通教室に転用可能な教室)の活用状況								
	展示室、社会科教室、学習室、会議室、更衣室								
現状と課題	1 教室は足りているか	・27年度までは足りる見込みである。							
	2 敷地面積は十分か	・十分である。							
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。							
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道2.5km以内である。							
	5 将来的な生徒数の展望は	・減少傾向と予想される。							
	6 学校の位置は適当か	・学区のやや南西部に位置している。							
	7 その他	・約20年の間に、農業を中心とする地域から市街地へと大きく変容した地域である。 ・通学区域は、西清小学校学区の一部と祇園小学校学区の一部である。							

⑮太田中学校								
生徒数・学級数の推移	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	生徒数	499	518	552	546	565	583	593
	学級数	17 (2)	18 (2)	19 (2)	19 (2)	19 (2)	20 (2)	20 (2)
施設関係	建設年度		耐震工事		就学可能学級数		余裕教室数	
	S52・55・63		未実施		17		0	
	余裕教室(普通教室に転用可能な教室)の活用状況							
現状と課題	1 教室は足りているか	・22年度は特別教室の転用により足りるが、23年度から不足する見込みである。						
	2 敷地面積は十分か	・十分である。						
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。						
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道3km以内である。						
	5 将来的な生徒数の展望は	・増加傾向と予想される。						
	6 学校の位置は適当か	・学区のほぼ中心部に位置している。						
	7 その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の急増に伴い、昭和52年度にプレハブ校舎5学級を建設した。</li> <li>・新興住宅地を抱え、人口の急増が予測される地域である。</li> <li>・通学区域は清見台小学校学区と請西小学校の一部学区である。</li> </ul>						

⑯畑沢中学校								
生徒数・学級数の推移	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	生徒数	440	487	485	503	495	508	514
	学級数	14 (2)	16 (2)	17 (2)	18 (2)	17 (2)	17 (2)	17 (2)
施設関係	建設年度		耐震工事		就学可能学級数		余裕教室数	
	S55・56・59		未実施		16		2	
	余裕教室(普通教室に転用可能な教室)の活用状況							
	多目的室、大会議室							
現状と課題	1 教室は足りているか	・特別教室の転用により、27年度までは足りる見込みである。						
	2 敷地面積は十分か	・十分である。						
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。						
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道2.5km以内である。						
	5 将来的な生徒数の展望は	・増加傾向と予想される。						
	6 学校の位置は適当か	・学区の東部に位置している。						
	7 その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市南西部に位置し、君津市に隣接している。</li> <li>・通学区域は、畑沢小学校学区、波岡小学校学区である。</li> </ul>						

⑰波岡中学校									
		年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
生徒数・学級数の推移		生徒数	268	248	264	308	329	333	342
		学級数	10 (2)	10 (2)	10 (2)	12 (2)	12 (2)	12 (2)	12 (2)
施設関係		建設年度	耐震工事		就学可能学級数	余裕教室数			
		S58	不要		11	1			
		余裕教室(普通教室に転用可能な教室)の活用状況							
		資料室							
現状と課題	1 教室は足りているか	・特別教室の転用により、27年度までは足りる見込みである。							
	2 敷地面積は十分か	・十分である。							
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。							
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道4km以内である。							
	5 将来的な生徒数の展望は	・増加傾向と予想される。							
	6 学校の位置は適当か	・学区の南西部に位置している。							
	7 その他	・烏田地区、大久保団地、八幡台団地といった宅地造成地を有する地域である。 ・通学区域は、波岡小学校学区、八幡台小学校学区である。							

⑱清川中学校									
		年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
生徒数・学級数の推移		児童数	184	186	202	218	215	237	263
		学級数	7 (1)	7 (1)	8 (1)	9 (1)	9 (1)	9 (1)	9 (1)
施設関係		建設年度	耐震工事		就学可能学級数	余裕教室数			
		S60	不要		8	1			
		余裕教室(普通教室に転用可能な教室)の活用状況							
		生徒会室、多目的室							
現状と課題	1 教室は足りているか	・特別教室の転用により、27年度までは足りる見込みである。							
	2 敷地面積は十分か	・十分である。							
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。							
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道6km以内である。							
	5 将来的な生徒数の展望は	・増加傾向と予想される。							
	6 学校の位置は適当か	・学区の北西部に位置している。							
	7 その他	・生徒増のため、昭和60年度に木更津第三中学校から分離開校した。 ・ほたる野地区の人口が急増している。 ・通学区域は、東清小学校学区、南清小学校学区、祇園小学校の一部学区である。							

【市街地・新市街地以外の13校】

《小学校7校》

①岩根小学校		年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
児童数・学級数の推移		児童数	351	358	360	363	349	357	347	
		学級数	13 (1)	13 (1)	13 (1)	13 (1)	13 (1)	13 (1)	13 (1)	
施設関係		建設年度	耐震工事		就学可能学級数		余裕教室数			
		S42・43・53	実施済		29		16			
		余裕教室(普通教室に転用可能な教室)の活用状況								
		少人数指導教室、歴史資料室、特別活動室、PTA室、ボランティア室、教材室、用具・備品庫								
現状と課題	1 教室は足りているか	・27年度までは足りる見込みである。								
	2 敷地面積は十分か	・十分である。								
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。								
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道3km以内である。								
	5 将来的な児童数の展望は	・ほぼ横ばいと予想される。								
	6 学校の位置は適当か	・学区の東端に位置している。								
	7 その他	・JR内房線の西側の旧市街地である。 ・運動場に借用地がある。								

②高柳小学校		年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
児童数・学級数の推移		児童数	516	507	504	502	495	500	489	
		学級数	20 (2)	20 (2)	20 (2)	20 (2)	19 (2)	19 (2)	19 (2)	
施設関係		建設年度	耐震工事		就学可能学級数		余裕教室数			
		S46・48・53・55	22年度実施予定		33		13			
		余裕教室(普通教室に転用可能な教室)の活用状況								
		少人数指導・学年集会室、研修室、PTA室、会議室								
現状と課題	1 教室は足りているか	・27年度までは足りる見込みである。								
	2 敷地面積は十分か	・十分である。								
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。								
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道3.5km以内である。								
	5 将来的な児童数の展望は	・ほぼ横ばいと予想される。								
	6 学校の位置は適当か	・学区の北東部に位置している。								
	7 その他	・JR内房線の東側の旧市街地である。								

③鎌足小学校		年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
児童数・学級数の推移	児童数		96	96	95	94	77	83	74
	学級数		7 (1)	7 (1)	7 (1)	7 (1)	7 (1)	7 (1)	7 (1)
施設関係	建設年度	S43・49・63		耐震工事		就学可能学級数		余裕教室数	
				未実施		7		0	
	余裕教室(普通教室に転用可能な教室)の活用状況								
現状と課題	1 教室は足りているか	・27年度までは足りる見込みである。							
	2 敷地面積は十分か	・十分である。							
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。							
	4 通学距離は適当か	・一部片道4kmを超える地域がある。(5km以内)							
	5 将来的な児童数の展望は	・減少傾向と予想される。							
	6 学校の位置は適当か	・学区のやや北西部に位置している。							
	7 その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧鎌足村の地域であり、将来的にも児童数の増は見込めない状況である。</li> <li>・学区の大半が市街化調整区域であるため、人口の増減はほとんど見られない。</li> </ul>							

④金田小学校		年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
児童数・学級数の推移	児童数		160	150	141	130	127	127	112
	学級数		8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)
施設関係	建設年度	S3・40・41		耐震工事		就学可能学級数		余裕教室数	
				未実施		13		5	
	余裕教室(普通教室に転用可能な教室)の活用状況								
	児童会室、少人数指導ルーム、多目的室								
現状と課題	1 教室は足りているか	・27年度までは足りる見込みである。							
	2 敷地面積は十分か	・十分である。							
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。							
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道3.5km以内である。							
	5 将来的な児童数の展望は	・減少傾向と予想される。							
	6 学校の位置は適当か	・学区の南部に位置している。							
	7 その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧金田村の漁業、農業地域である。</li> <li>・東京湾アクアラインの接岸地であり、観光業の発展がみられる。</li> <li>・児童数は減少傾向にあるものの、現在、金田東・西土地区画整理事業が施行されており、今後人口増加の可能性のある地域である。</li> </ul>							

⑤中郷小学校								
児童数・学級数の推移	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	児童数	110	100	99	100	89	91	83
	学級数	7 (1)	7 (1)	7 (1)	7 (1)	7 (1)	7 (1)	7 (1)
施設関係	建設年度		耐震工事		就学可能学級数		余裕教室数	
	S43・44		未実施		9		2	
	余裕教室(普通教室に転用可能な教室)の活用状況							
	児童会室、多目的室							
現状と課題	1 教室は足りているか	・27年度までは足りる見込みである。						
	2 敷地面積は十分か	・十分な運動場が確保できない。						
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。						
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道4km以内である。						
	5 将来的な児童数の展望は	・減少傾向と予想される。						
	6 学校の位置は適当か	・学区の北部に位置している。						
	7 その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・館山自動車道、アクアライン連絡道の開通により通学路に大きな影響を及ぼしている。</li> <li>・学区の大半が市街化調整区域であるため、人口の増減はほとんど見られない。</li> <li>・建物敷地に借用地がある。</li> </ul>						

⑥馬来田小学校								
児童数・学級数の推移	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	児童数	276	262	236	214	195	160	146
	学級数	13 (2)	12 (2)	11 (2)	10 (2)	9 (2)	8 (2)	8 (2)
施設関係	建設年度		耐震工事		就学可能学級数		余裕教室数	
	H46・55・56		22年度実施予定		13		0	
	余裕教室(普通教室に転用可能な教室)の活用状況							
現状と課題	1 教室は足りているか	・27年度までは足りる見込みである。						
	2 敷地面積は十分か	・十分である。						
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。						
	4 通学距離は適当か	・一部片道4kmを超える地域がある。(7km以内)						
	5 将来的な児童数の展望は	・減少傾向と予想される。						
	6 学校の位置は適当か	・学区のやや西部に位置している。						
	7 その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学区は市東部に位置し、北西部は袖ヶ浦市、東部は市原市、南部は君津市と隣接している。</li> <li>・学区が広範囲のため、山間地の児童は自転車通学である。</li> <li>・学校前の県道は交通量が多い。</li> </ul>						

⑦富岡小学校								
児童数・学級数の推移	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	児童数	64	61	65	63	49	48	45
	学級数	7 (1)	7 (1)	7 (1)	7 (1)	7 (1)	7 (1)	7 (1)
施設関係	建設年度		耐震工事		就学可能学級数		余裕教室数	
	S50・57		未実施		7		0	
	余裕教室(普通教室に転用可能な教室)の活用状況							
現状と課題	1 教室は足りているか	・27年度までは足りる見込みである。						
	2 敷地面積は十分か	・十分である。						
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。						
	4 通学距離は適当か	・一部片道4kmを超える地域がある。(5. 5km以内)						
	5 将来的な児童数の展望は	・減少傾向と予想される。						
	6 学校の位置は適当か	・学区の北東部に位置している。						
	7 その他	・学区は市東部に位置し、袖ヶ浦市・君津市と隣接している。 ・圏央道インターチェンジ開通に伴い、交通量が増加している。 ・農業に従事している住民が多く、人口増は見込み難い地域である。 ・22年度から複式学級となる可能性がある。						

《中学校6校》

⑧岩根中学校								
生徒数・学級数の推移	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	生徒数	264	271	270	273	250	245	252
	学級数	12 (3)	12 (3)	12 (3)	12 (3)	12 (3)	12 (3)	12 (3)
施設関係	建設年度		耐震工事		就学可能学級数		余裕教室数	
	S46・47・48・51		未実施		19		7	
	余裕教室(普通教室に転用可能な教室)の活用状況							
	生徒会室、資料室、PTA室、倉庫、多目的室							
現状と課題	1 教室は足りているか	・27年度までは足りる見込みである。						
	2 敷地面積は十分か	・十分である。						
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。						
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道3. 5km以内である。						
	5 将来的な生徒数の展望は	・ほぼ横ばいと予想される。						
	6 学校の位置は適当か	・学区の北東部に位置している。						
	7 その他	・JR内房線の東側の旧市街地である。 ・通学区域は、高柳小学校学区である。						



⑨鎌足中学校								
生徒数・学級数の推移	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	生徒数	55	47	48	45	55	50	51
	学級数	4 (1)	4 (1)	4 (1)	4 (1)	4 (1)	4 (1)	4 (1)
施設関係	建設年度		耐震工事		就学可能学級数		余裕教室数	
	S60		不要		4		0	
	余裕教室(普通教室に転用可能な教室)の活用状況							
現状と課題	1 教室は足りているか	・27年度までは足りる見込みである。						
	2 敷地面積は十分か	・十分である。						
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。						
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道4.5km以内である。						
	5 将来的な生徒数の展望は	・ほぼ横ばいと予想される。						
	6 学校の位置は適当か	・学区の北西部に位置している。						
	7 その他	・旧鎌足村地区であり、地域の繋がりの強い地区である。 ・通学区域は鎌足小学校学区である。						

⑩金田中学校								
生徒数・学級数の推移	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	生徒数	85	94	95	97	88	75	68
	学級数	4 (1)	4 (1)	4 (1)	4 (1)	4 (1)	4 (1)	4 (1)
施設関係	建設年度		耐震工事		就学可能学級数		余裕教室数	
	S41		未実施		5		1	
	余裕教室(普通教室に転用可能な教室)の活用状況							
	会議室							
現状と課題	1 教室は足りているか	・27年度までは足りる見込みである。						
	2 敷地面積は十分か	・十分である。						
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。						
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道3.5km以内である。						
	5 将来的な生徒数の展望は	・今後数年は増加傾向にあるものの、その後は減少が予想される。						
	6 学校の位置は適当か	・学区の南部に位置している。						
	7 その他	・旧金田村地区であり、地域の繋がりの強い地区である。 ・現在、金田東・西土地区画整理事業が行われており、今後人口の増加が見込まれる地域である。 ・通学区域は、金田小学校学区である。						

⑪中郷中学校								
生徒数・学級数の推移	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	生徒数	52	56	60	68	66	59	59
	学級数	3 (0)	3 (0)	3 (0)	3 (0)	3 (0)	3 (0)	3 (0)
施設関係	建設年度		耐震工事		就学可能学級数		余裕教室数	
	S41・43・50・H8		未実施		4		1	
	余裕教室(普通教室に転用可能な教室)の活用状況							
	生徒会室(多目的室)							
現状と課題	1 教室は足りているか	・27年度までは足りる見込みである。						
	2 敷地面積は十分か	・十分である。						
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。						
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道5km以内である。						
	5 将来的な生徒数の展望は	・増加傾向と予想される。						
	6 学校の位置は適当か	・学区のやや東部に位置している。						
	7 その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧中郷村地域であり、袖ヶ浦市に隣接している。</li> <li>・市街化調整区域のため、他地域からの移住は少ない。</li> <li>・通学区域は、中郷小学校学区である。</li> </ul>						

⑫富来田中学校								
生徒数・学級数の推移	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	生徒数	219	212	203	184	175	173	155
	学級数	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)
施設関係	建設年度		耐震工事		就学可能学級数		余裕教室数	
	S48・49		未実施		10		2	
	余裕教室(普通教室に転用可能な教室)の活用状況							
	数学室、国際理解室、多目的室							
現状と課題	1 教室は足りているか	・27年度までは足りる見込みである。						
	2 敷地面積は十分か	・十分である。						
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール、武道場有り。						
	4 通学距離は適当か	・一部片道6kmを超える地域がある。(10km前後)						
	5 将来的な生徒数の展望は	・減少傾向と予想される。						
	6 学校の位置は適当か	・学区のほぼ中心部に位置している。						
	7 その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧富来田町地区であり、地域の繋がりの強い地区である。</li> <li>・市内で最も学区が広く、市原市・袖ヶ浦市・君津市に隣接している。</li> <li>・通学区域は、馬来田小学校学区、富岡小学校学区である。</li> </ul>						

⑬岩根西中学校									
		年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
生徒数・学級数の推移		生徒数	198	201	186	180	184	173	168
		学級数	7 (1)	7 (1)	7 (1)	7 (1)	7 (1)	7 (1)	7 (1)
施設関係		建設年度	耐震工事		就学可能学級数		余裕教室数		
		S57	不要		10		3		
		余裕教室(普通教室に転用可能な教室)の活用状況							
		多目的室、学年学習室							
現 状 と 課 題	1 教室は足りているか	・27年度までは足りる見込みである。							
	2 敷地面積は十分か	・十分である。							
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。							
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道3km以内である。							
	5 将来的な生徒数の展望は	・減少傾向と予想される。							
	6 学校の位置は適当か	・学区のほぼ中心部に位置している。							
	7 その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR内房線の西側の旧市街地である。</li> <li>・通学区域は、岩根小学校学区である。</li> <li>・建物敷地と運動場に借用地がある。</li> </ul>							

## Ⅱ 本市における小中学校の適正規模

### 1 本市の小中学校の適正規模の基本的な考え方

#### (1) 本市の学校規模の現状

学校の規模について、国は学校教育法施行規則で12学級以上18学級以下を標準としています。そこで、この標準に対し本市の小中学校の規模がどのような状況であるかを確認しました。

小学校は18校のうち標準にあたる学校が5校、標準を下回る学校が9校、標準を上回る学校が4校となり、中学校は13校のうち標準にあたる学校が3校、標準を下回る学校が10校、標準を上回る学校はないという結果で、小中学校ともに標準を下回る学校が非常に多い状況であることが判りました。

学校規模	小学校	学級数	中学校	学級数
標準を下回る (11学級以下)	東清小学校	6	木更津第一中学校	9
	西清小学校	10	木更津第三中学校	10
	南清小学校	8	岩根中学校	9
	波岡小学校	11	鎌足中学校	3
	鎌足小学校	6	金田中学校	3
	金田小学校	6	中郷中学校	3
	中郷小学校	6	富来田中学校	6
	馬來田小学校	11	岩根西中学校	6
	富岡小学校	6	波岡中学校 清川中学校	8 6
標準 (12学級以上18学級以下)	木更津第一小学校	17	木更津第二中学校	15
	木更津第二小学校	18	太田中学校	15
	岩根小学校	12	畑沢中学校	12
	高柳小学校	18		
	八幡台小学校	14		
標準を上回る (19学級以上)	清見台小学校	19		
	祇園小学校	21		
	畑沢小学校	26		
	請西小学校	27		

※学級数には特別支援学級を含まない

#### (2) 適正規模の基本的な考え方

次に、適正規模を検討するにあたっては、教育環境、指導体制、学校運営の面から、以下の考え方を基本とすることとしました。

##### ① 教育環境（生活面）

- ・多様な価値観を持つ仲間と触れ合える規模であること。
- ・人間関係が固定化されることのない規模であること。

- ・教員と児童生徒との関わりが十分に保たれる規模であること。
- ・集団における連帯感が希薄にならない規模であること。

② 指導体制（教育活動面）

- ・多様な学習・指導形態を取ることのできる規模であること。
- ・教員が児童生徒一人ひとりの特性を把握できる規模であること。
- ・施設、設備を有効に活用できる規模であること。

③ 学校運営（教職員の組織）

- ・教員が互いに指導方法等を相談・研究できる規模であること。
- ・教職員が学校の教育目標や諸課題を共通理解できる規模であること。
- ・学年運営を効果的に進めることができる規模であること。

## 2 小規模校・大規模校のメリット・デメリット

前述の1（2）適正規模の基本的な考え方を踏まえ、小規模校と大規模校における一般的なメリットとデメリットを以下のとおりまとめました。

項目	小規模校のメリット (逆が大規模校のデメリット)	小規模校のデメリット (逆が大規模校のメリット)
生活面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒同士の信頼関係が深まる。</li> <li>・児童生徒一人ひとりの個性を把握しやすい。</li> <li>・教職員と保護者との人間関係が密接になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交友関係が固定化され、新たな人間関係による社会性が育ちにくい。</li> <li>・良い意味での競争心が育ちにくく切磋琢磨する機会が少なくなる。</li> <li>・活気が乏しくなりやすい。</li> <li>・いじめ等の問題が解消しにくい。</li> </ul>
教育活動面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒への指導が徹底しやすい。</li> <li>・施設整備の使用が容易である。</li> <li>・学校、学年行事等での活動の場が増える。</li> <li>・落ち着いた雰囲気の中で活動できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス替えができない。</li> <li>・希望するクラブ活動や部活動が制限される。</li> <li>・運動会（体育祭）、遠足等で、児童生徒の主体性を育むための多様な活動計画が組みにくい。</li> </ul>
教職員の組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員相互の連絡調整が図りやすく、学校教育目標や教育活動に一貫性を持たせやすい。</li> <li>・教職員相互の連携が密になる。</li> <li>・業務と責任が明確になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人で多くの校務分掌を抱えることになり、業務処理に追われる。</li> <li>・教科数を満たす教員数の確保が難しい。</li> <li>・教師間の創意工夫に限りがある。</li> <li>・教材研究等で教員相互の連携がとりにくい。</li> </ul>

### 3 本市における小中学校の適正規模

本市の学校規模の現状を踏まえ、適正規模の基本的な考え方に基づき、小規模校・大規模校のメリット・デメリットを検証したうえで、子どもたちにとって望ましい学校規模を検討した結果、集団生活を通じて、一人ひとりの個性を生かしながら、多様な人間関係の中で切磋琢磨して、豊かな人間性や社会性、思いやりの心を育てる教育を進めていくことのできる規模が望ましく、これが適正規模につながるものと考えられます。

このことから、小学校においてはクラス替えが可能で、運動会等学校行事で適度な活性化が図れる規模を適正と考えます。

中学校においては、教員が専門の教科を担当して指導にあたることから、充実した教科経営や指導が可能となるよう、同じ教科を担当する教員を複数配置することができ、また部活動等の課外活動がある程度維持できる規模を適正規模として、本市における小中学校の適正規模を以下のとおりとしました。

#### 《本市における小中学校の適正規模》

小学校：12学級から18学級（1学年2学級から3学級）

中学校：12学級から18学級（1学年4学級から6学級）

### Ⅲ 本市における小中学校の適正配置のあり方

#### 1 適正配置に向けての基本的な考え方

本市における小中学校の配置の適正化を検討するにあたっては、様々な視点がありますが、以下の考え方を基本とすることとしました。

- ① 適正規模を確保すること
  - ・適正規模を下回る学校（以下「小規模校」という。）・適正規模を上回る学校（以下「大規模校」という。）の解消を目指す。
- ② 地域特性に配慮すること
  - ・地域とのつながりに最大限配慮する。
  - ・学校と地域社会との関わりを大切にする。
- ③ 児童生徒数の将来推計を考慮すること
  - ・現状だけでなく、将来の児童生徒数の展望を見据えた検討を行う。
- ④ 通学距離を考慮すること
  - ・児童生徒にとって著しい負担にならないよう配慮する。
- ⑤ 通学の安全性を確保すること
  - ・児童生徒の通学状況を把握し、安全性が保たれるよう配慮する。
- ⑥ 施設の現状を考慮すること
  - ・校舎や運動場の広さなど、学校施設の状況を把握する。
- ⑦ 指導体制をはじめとする学校教育環境を考慮すること
  - ・多様な人間関係を育むことができる学校規模を考慮する。
  - ・学校行事やクラブ活動等、様々な活動ができる教育環境を整える。
  - ・小中学校間の連携のあり方を考慮する。

上記の7項目のほか、小学校と中学校との関わりに配慮し、子どもたちが中学校へ進学するときには、複数の中学校へ分かれることなく「一つの小学校から一つの中学校へ」進学することが望ましいということを重要視し、本市における小中学校の適正配置のあり方を検討しました。

なお、具体的な審議においては、本市の財政状況を考慮するという観点から、まずは既存施設の有効活用を基本としました。

#### 2 適正配置に向けての学校規模別の方策

小中学校の配置を適正化するための方策としては、「通学区域の変更」、「学校の統廃合」、「学校の新設・移転」が考えられます。

そこで、本市における小中学校の適正規模に照らし、学校規模別に適正配置に向けての方策を次のとおり整理しました。

なお、本市は6か所の学校予定地を有することから、「学校の新設・移転」については、これらの学校予定地の活用を視野に入れて審議することとしました。

① 小規模校に対する方策

小規模校の適正配置については、適正規模化に向けて、隣接する学校との通学区域の変更や、児童生徒数の将来推計によっては隣接校との統廃合あるいは学校予定地等への移転といった方策が考えられます。

② 大規模校に対する方策

大規模校の適正配置については、適正規模化に向けて、隣接する学校との通学区域の変更や、学校予定地等への新設・移転といった方策が考えられます。

③ 適正規模校に対する方策

現在適正規模の学校であっても、将来の児童生徒数の展望などを見据えて、適正配置を検討する必要があります。児童生徒数の将来推計によっては、通学区域の変更などの方策が考えられます。

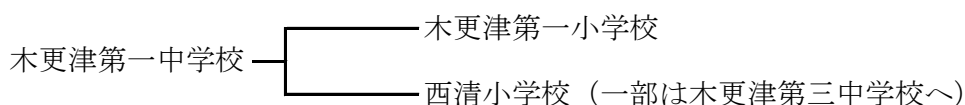
### 3 適正配置に向けての学校ごとの方策

#### (1) 市街地・新市街地の18校

市街地・新市街地の小中学校の適正配置に向けての方策について、それぞれの学校の規模を念頭に置きながら、適正配置に向けての基本的な考え方にに基づき、学校ごとに検討した結果は、以下のとおりです。

また、市街地・新市街地にある6か所の学校予定地についても審議すべき事項として挙げられていますので、これらの活用の可能性についても併せて審議しました。

#### ① 木更津第一中学校区について



#### ■木更津第一中学校

木更津第一中学校は、現在9学級の小規模校ですが、生徒数はやや増加傾向であり、平成24年度には、一旦12学級の適正規模になると予測されます。その後、小規模となるものの、適正規模に近い11学級で推移するものと見込まれます。

学校は、学区の中心部に位置していて、通学に問題はなく、学区と地域コミュニティーとの整合もとれています。

以上のことから、木更津第一中学校については、適正配置に向けて現時点で方策を講ずべき要因はないものと考えます。

#### ●木更津第一小学校

木更津第一小学校は、現在17学級の適正規模校です。今後の児童数の推移をみると、ほぼ横ばいと予測され、通学距離や通学の安全性に問題はないといえます。

平成20年度に校舎を改築したものの、100メートルの直線及び200メートルトラックが確保できないといった課題はありますが、極端に狭小ではないことから、木更津第一小学校については、現状維持としてやむを得ないものと考えます。



## ●西清小学校

西清小学校は現在10学級の小規模校ですが、今後の児童数の推移をみると、平成24年度から12学級で適正規模になる見込みです。

しかし、敷地が狭隘であることに加え、建物敷地と運動場に借用地があることも課題となっています。

また、児童が木更津第一中学校と木更津第三中学校に分かれて進学しており、一つの小学校から二つの中学校へ進学している状況です。

そこで、現状でどちらか一方の中学校に西清小学校の全ての児童が進学することを検証すると、それぞれの中学校の位置や通学区域を考えると難しいものと判断されま

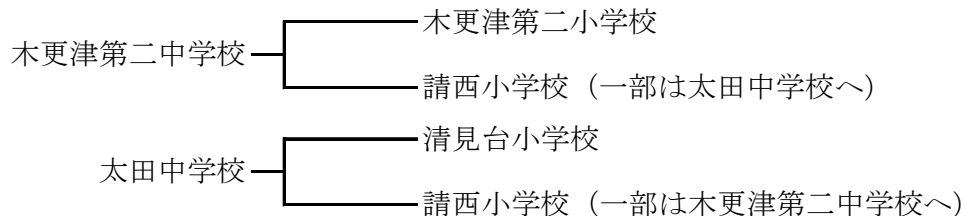
す。

また、地域特性に配慮し、木更津第一中学校に進学する児童を木更津第一小学校へ、木更津第三中学校に進学する児童を祇園小学校へ統合することを検証すると、この場合木更津第一小学校は適正規模校から大規模校となり、祇園小学校はすでに大規模校であるので更に大規模化することとなります。

(資料編「シミュレーションA」参照)

以上のことから、西清小学校については現状維持としてやむを得ないものと考えますが、今後の児童数の推移によっては、いずれは統廃合を検討すべきであると考えま

## ② 木更津第二中学校区及び太田中学校区について



## ●請西小学校

請西小学校は、現在27学級と適正規模を大きく上回った学校で、市内で最も大規模な小学校です。今後の児童数の推移をみると、ほぼ横ばいと予測され、大規模校ではあるものの、教室等の施設は足りる見込みです。

これは、平成18年度に通学区域の変更が行われ、請西小学校の学区の一部である真舟地区が木更津第二小学校へ、太田及び東太田地区の一部が清見台小学校へ編入されて、児童数の急増が収束したことによるものと考えられます。

しかし、人口が急増している請西東・請西南地区を学区に含んでいることから、児童数の増加が想定され、この場合には、更なる大規模化を招くとともに、施設が不足することとなります。

また、学区全域の通学距離は4キロメートル以内であるものの、学校は学区の北端に位置しています。一方、今後最も児童数の増加が予測される請西東・請西南地区は学区の南側にあたります。

そこで、隣接する小学校との通学区域の変更を検証しました。隣接する小学校は、木更津第二小学校、清見台小学校、波岡小学校、鎌足小学校です。

まず、木更津第二小学校は、平成22年度から大規模化する見込みであり、また平成18年度に通学区域の変更において真舟地区を編入した経緯があるので、更なる変更は難しいと考えられます。

次に、清見台小学校はすでに大規模校で、平成18年度に通学区域の変更において太田及び東太田地区の一部を編入した経緯があるので、やはり更なる変更は難しいと考えられます。

また、波岡小学校、鎌足小学校との通学区域の変更は、地域特性に配慮すれば難しいと考えられます。

よって、隣接校との通学区域の変更による学校規模の適正化は困難であると考えます。

残る方策としては、学校の新設・移転が考えられ、請西小学校の場合は移転による学校規模の適正化は難しいことから、学区を二つに分割して、学校を新設することを検証しました。

なお、検証に際しては、さきに述べたように隣接する木更津第二小学校が平成22年度から大規模化する見込みであり、平成18年度に木更津第二小学校区となった真舟地区は請西小学校の学区であったことから、木更津第二小学校の大規模化を防ぐためにも、この真舟地区を含めて検討することとしました。

既存施設の有効活用を基本とするため、現在の請西小学校を生かすことを前提に学区を分割すると、請西小学校は学区の北端にあることから、南北に分けることが適当です。南部には前述の真舟地区に（仮称）真舟小学校予定地があり、人口が急増している請西東・請西南地区に近接する位置にあることから、この予定地に小学校を新設することが望ましいと考えられます。

（仮称）真舟小学校予定地に小学校を新設し、請西東地区の一部、請西南地区、真舟地区を学区とする通学区域の再編を行うことによって、請西小学校と、隣接する木更津第二小学校の規模の適正化を実現することができるようになります。

以上のことから、請西小学校については、大規模化の解消のため、学区の南部を切り離し、この切り離れた地区と、真舟地区を学区とする小学校を（仮称）真舟小学校予定地に新設する以外にはないと考えます。

### ●木更津第二小学校

木更津第二小学校は、現在18学級の適正規模校ですが、今後の児童数の推移をみると、ほぼ横ばいと予測されるものの、若干の増加が見込まれることから、学級数が平成22年度から19学級となり、適正規模を上回る大規模校となる見込みです。

また、真舟地区の児童が交通量の激しい国道16号バイパスを横断して通学しており、安全性の確保が課題となっています。

大規模化を防ぎ、また、真舟地区の児童の通学の安全性を確保するためにも、前述した真舟地区を（仮称）真舟小学校予定地に新設する小学校の学区とする方が有効となります。

以上のことから、木更津第二小学校については、真舟地区を学区から切り離すべきであり、この真舟地区と、請西小学校から切り離れた地区を学区とする小学校を（仮称）真舟小学校予定地に新設すべきであると考えます。

また、木更津第二小学校区内に存する桜井小学校予定地は、活用の可能性は低いものと考えます。

### ■木更津第二中学校

木更津第二中学校は、現在15学級の適正規模校です。今後の生徒数の推移をみると、やや増加傾向と予測されるものの、適正規模の範囲で推移するものと見込まれます。しかし、人口が急増している請西東・請西南地区を学区に含んでいることから、大規模化する可能性があります。

その場合、現在の施設では対応が難しく、敷地形状により十分な運動場が確保できないといった課題もあります。

そこで、隣接する木更津第一中学校、太田中学校、畑沢中学校、波岡中学校との通

学区域の変更を検証しました。

木更津第一中学校、畑沢中学校、波岡中学校については、地域特性に配慮すれば難しいと考えられます。

太田中学校との通学区域の変更については、一つの小学校から一つの中学校へ進学することを重要視すると、それぞれの中学校区を構成する小学校区から検証する必要があります。前述のとおり、児童が木更津第二中学校に進学することとなる木更津第二小学校と請西小学校の適正配置に向けては、(仮称)真舟小学校予定地に新たな小学校を設置し、通学区域を再編するべきといたしました。したがって、清見台小学校、請西小学校、木更津第二小学校、(仮称)真舟小学校予定地に新設する小学校の4校をそれぞれの中学校区に再編するということになります。

そうすると、清見台小学校区と規模を縮小した請西小学校区を太田中学校区とし、木更津第二小学校区と(仮称)真舟小学校予定地に新設する小学校の学区を木更津第二中学校区とすることが妥当だと考えられます。

(「シミュレーションD」参照)

この場合、太田中学校区を構成する請西小学校区内に木更津第二中学校が位置することとなるため、真舟中学校予定地へ移転することが必要となります。

これによって、十分な運動場を確保することができ、更に移転の際適切な施設整備を行うことによって、施設面の課題も解決されるものと考えられます。

以上のことから、木更津第二中学校については、(仮称)真舟小学校予定地に小学校を新設することを前提としたうえで、真舟中学校予定地に移転し、木更津第二小学校区と(仮称)真舟小学校予定地に新設する小学校の学区を移転後の木更津第二中学校の学区とすべきであると考えます。

なお、後述のとおり、これによって、太田中学校区も清見台小学校区と規模を縮小した請西小学校区を学区とすることとなりますが、適正規模が維持できると考えます。

## ■太田中学校

太田中学校は現在15学級の適正規模校です。今後の生徒数の推移をみると、増加傾向と予測されるものの、適正規模の範囲で推移するものと見込まれます。しかし、平成23年度には17学級となる見込みで、適正規模であるにもかかわらず教室が不足するため、施設整備が必要な状況です。

また、人口が急増している請西東地区を学区に含んでいることから、更なる生徒数の増加が想定され、大規模化する可能性があります。

施設不足及び懸念される大規模化を解消するため、太田中学校の学区を木更津第三中学校の学区へ一部編入するという通学区域の変更案が示されましたが、安易な数合わせの案であり、また、清見台小学校の児童が木更津第三中学校と太田中学校に分かれて進学することとなるため、一つの小学校から一つの中学校に進学するという視点からも、適切な案ではありません。

そこで、大規模化の解消に向けて、改めて隣接する木更津第一中学校、木更津第二中学校、木更津第三中学校、清川中学校との通学区域の変更について検証しました。

木更津第一中学校、木更津第三中学校、清川中学校については、地域特性に配慮すれば難しいと考えられます。

木更津第二中学校との通学区域の変更については、一つの小学校から一つの中学校へ進学することを重要視すると、それぞれの中学校区を構成する小学校区から検証する必要があります。また、前述のとおり、児童が太田中学校に進学することとなる請西小学校の適正配置に向けては、真舟小学校予定地に新たな小学校を設置し、通学区域を再編するべきといたしました。

したがって、清見台小学校、請西小学校、木更津第二小学校、(仮称)真舟小学校

予定地に新設する小学校の4校をそれぞれの中学校区に再編するということとなります。

そうすると、清見台小学校区と規模を縮小した請西小学校区を太田中学校区とし、木更津第二小学校区と（仮称）真舟小学校予定地に新設する小学校の学区を木更津第二中学校区とすることが妥当だと考えられます。

（「シミュレーションD」参照）

以上のことから、太田中学校については、（仮称）真舟小学校予定地に小学校を新設することを前提としたうえで、木更津第二中学校が（仮称）真舟中学校予定地に移転する際に、清見台小学校区と規模を縮小した請西小学校区を太田中学校の学区とすべきであると考えます。

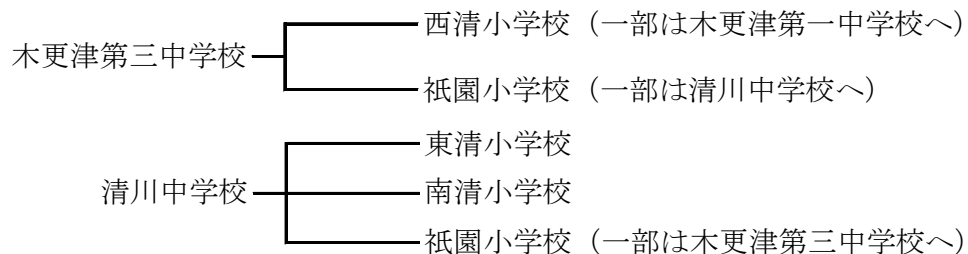
### ●清見台小学校

清見台小学校は、現在19学級の大規模校であり、今後の児童数の推移をみると、横ばいと予測されるものの、若干の増加が見込まれることから、学級数が平成25年度には22学級となり、やや大規模化が進む見込みです。

大規模であることを解消するため、隣接校との通学区域の変更を検討すると、隣接する小学校は、祇園小学校と請西小学校となっていますが、両校とも大規模校であり、通学区域の変更や統廃合は困難であると思われまます。

通学距離や通学の安全性、施設の状況に特に問題はなく、地域との関わりも良好に保たれているうえ、教室等の施設は足りる見込みであることから、清見台小学校は、大規模校であるものの、当面現状維持としてやむを得ないものと考えます。

### ③ 木更津第三中学校区及び清川中学校区について



### ■木更津第三中学校

木更津第三中学校は、現在10学級の小規模校です。今後の生徒数の推移をみると、減少傾向と予測されるため、当面は小規模校のまま推移する見込みです。

また、木更津第三中学校は、西清小学校区の一部と祇園小学校区の一部を学区としていることから、西清小学校の児童の一部は木更津第一中学校へ、祇園小学校の児童の一部は清川中学校へそれぞれ分かれて進学している状況です。

そこで、これらの課題を解決するため、隣接する木更津第一中学校、岩根中学校、太田中学校、清川中学校との通学区域の変更を検証しました。

木更津第一中学校との通学区域の変更は、西清小学校区のすべてを木更津第三中学校区に変更することが最良となりますが、この変更によって、新たに木更津第三中学校へ通学することとなる地域は、すぐ目の前が木更津第一中学校である地域であるため、通学区域における学校の位置という面で適正を欠き、あまり好ましい通学区域の変更とはいえないと考えられます。

また、岩根中学校との通学区域の変更は、地域特性に配慮すれば難しく、太田中学校とは、前述のとおり、やはり難しいものと考えます。

次に、清川中学校との通学区域の変更については、一つの小学校から一つの中学

校へ進学することを重要視すると、祇園小学校区のすべてを木更津第三中学校区に変更することが考えられます。この場合、木更津第三中学校の規模を適正化することができ、なおかつ、祇園小学校の児童が二つの中学校に分かれて進学することもなくなります。

一方で、清川中学校も小規模校であり、これを解消するため、隣接校との通学区域の変更を検討すべきこととなりますので、祇園小学校区のすべてを清川中学校区に変更するという事も考えられます。そうすると、木更津第三中学校が極端に小規模化し、隣接する学校との通学区域の大幅な再編が必要となります。これに対し、清川中学校は人口が急増しているほたる野地区を学区に含んでいることから生徒数の増加が想定されています。したがって、地域特性にも配慮したうえで、祇園小学校区を分けることなくすべてをどちらの中学校区へと変更すべきかといえば、木更津第三中学校区とすることの方が妥当であると判断しました。

木更津第三中学校は、施設面からみても、平成22年度には校舎の耐震化のため、改築が予定されていることから、新校舎は、適正規模の学級数を維持できる学校施設とすることが可能です。

以上のことから、木更津第三中学校については、祇園小学校の全学区を含む学区へと通学区域の変更を検討すべきであると考えます。

### ●祇園小学校

祇園小学校は、現在21学級の大規模校ですが、今後の児童数の推移をみると、減少傾向と予測され、平成27年度には19学級となり、適正規模に近づく見込みです。

大規模であることを解消するため、隣接校との通学区域の変更を検討すると、隣接する小学校は、清見台小学校、西清小学校、南清小学校となっていますが、清見台小学校も大規模校であり、西清小学校及び南清小学校は施設面に余裕がないことから、これらの小学校との通学区域の変更や統廃合による適正配置は困難であると考えられます。

また、児童が木更津第三中学校と清川中学校に分かれて進学しており、一つの小学校から二つの中学校へ進学している状況であることから、前述のとおり、祇園小学校区の全てを木更津第三中学校区とすることが妥当ではないかと考えます。

以上のことから、祇園小学校については、通学距離や通学の安全性、施設の状況に特に問題はなく、地域との関わりも良好に保たれていると考えられることから、祇園小学校は大規模校ではあるものの、当面現状維持として、やむを得ないものと考えます。

### ●西清小学校

木更津第一中学校区で記載のとおり。

### ■清川中学校

清川中学校は、現在6学級の小規模校です。今後の生徒数の推移をみると、増加傾向と予測されるものの、小規模のまま推移するものと見込まれます。

ただし、人口が急増しているほたる野地区を学区に含んでいることから、更なる生徒数の増加が想定されます。

そこで、隣接する木更津第三中学校、鎌足中学校、中郷中学校との通学区域の変更を検証しました。

鎌足中学校、中郷中学校については、地域特性に配慮すれば難しいと考えられます。木更津第三中学校との通学区域の変更については、祇園小学校区のすべてを清川中

学校区とすることが考えられますが、前述のとおり、木更津第三中学校の適正規模を確保するため、また、祇園小学校の児童が一つの中学校に進学することができるよう、祇園小学校区については、その全てを木更津第三中学校区に変更することを検討すべきとしたところです。

この場合、清川中学校区から祇園小学校区の区域が外れ、生徒数が減少することとなりますが、ほたる野地区の生徒数の増加により、適正規模にかなり近づくものと考えられます。

以上のことから、清川中学校については、南清小学校区の児童数の推移を考慮したうえで、学区のうち、祇園小学校区の区域を木更津第三中学校の通学区域へ変更することを検討すべきであると考えます。

### ●東清小学校

東清小学校は、現在6学級の小規模校です。また、児童数は1学年10名前後で、全校児童はわずか65名という、いわば過小規模の学校です。今後の児童数の推移をみると、減少傾向と予測され、近い将来、複式学級\*となる可能性があります。

したがって、適正配置に向けては、隣接校との統廃合を検証せざるを得ないものと考えます。

隣接する小学校は、祇園小学校と南清小学校です。

祇園小学校は、大規模校であり、また、地域特性に配慮すれば難しいものと考えられます。

一方、南清小学校は、小規模校であり、東清小学校との統合は、規模の適正化の点から有効であると考えます。また、南清小学校の児童は清川中学校へ進学しており、統合しても東清小学校の児童が進学する中学校は変わらないこととなります。

ただし、この統合により、通学距離は最長でも片道4キロメートル以内であるものの、通学の安全性には課題が生じるものと考えられます。

以上のことから、東清小学校は、将来的には南清小学校との統廃合が妥当であると考えます。ただし、統廃合にあたっては、通学の安全性の確保のため、スクールバスの活用などを検討すべきであると付言します。

※複式学級とは、二つ以上の学年を一つにして編成した学級をいう。

### ●南清小学校

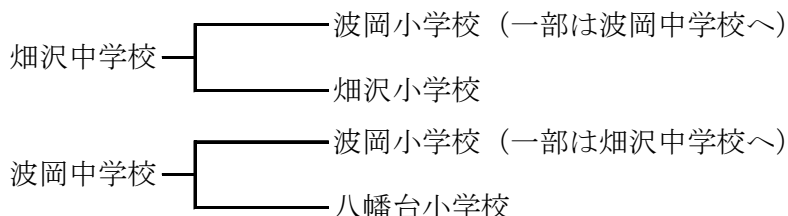
南清小学校は、現在9学級の小規模校です。今後の児童数の推移をみると、増加傾向と予測されますが、当面は小規模校のまま推移する見込みです。

ただし、人口が急増しているほたる野地区を学区に含んでいることから、更なる児童数の増加が想定され、これによって加速度的に適正規模に近づくことも考えられます。

施設面からみると、既に、今後の児童数の増加に対応するため校舎を増築するという方向性が市から明確に示されています。増築後は、前述のとおり、東清小学校を南清小学校に統合したとしても、これに足りる学校施設とすることが可能です。

以上のことから、南清小学校については、小規模校であるものの、当面現状維持として、やむを得ないものと考えます。

#### ④ 畑沢中学校区及び波岡中学校区について



#### ■畑沢中学校

畑沢中学校は、現在12学級の適正規模校であり、今後の生徒数の推移をみると、増加傾向と予測されるものの、適正規模の範囲で推移すると見込まれます。

学校は学区の東部に位置していますが、通学距離や通学の安全性、施設の状況にも特に問題はないことから、畑沢中学校については、適正配置の方策を講ずべき要因はないものと考えます。

よって、畑沢中学校区内に存する（仮称）畑沢中学校予定地については、活用の可能性は低いものと考えます。

#### ●畑沢小学校

畑沢小学校は、現在26学級の大規模校ですが、今後の児童数の推移をみると、減少傾向と予測されており、平成27年度には17学級で適正規模となる見込みです。

通学距離や通学の安全性、施設の状況に特に問題はないことから、畑沢小学校については、適正配置の方策を講ずべき要因はないものと考えます。

ただし、将来的には、地域コミュニティとの整合を図るという観点から、平成18年度に行われた畑沢小学校の大規模化による通学区域の変更により波岡小学校区に編入された地域を、畑沢小学校区に戻すことについても検討する必要があると考えます。

#### ●八幡台小学校

八幡台小学校は、現在14学級の適正規模校ですが、今後の児童数の推移をみると、増加傾向と予測されており、平成26年度には20学級の大規模校となる見込みです。

平成23年度には16学級となる見込みで、適正規模であるにもかかわらず教室が不足するため、施設整備が必要な状況です。

また、人口が急増している羽鳥野地区を学区に含んでいることから、更なる児童数の増加が想定され、予測よりも早く大規模化することも考えられます。

そこで、隣接する鎌足小学校と波岡小学校との通学区域の変更を検証しましたが、鎌足小学校については、地域特性に配慮すれば難しいと考えられます。一方、波岡小学校との通学区域の変更については、波岡小学校が小規模校であることから、有効な方策であると考えられます。

しかし、波岡小学校は通学面と施設面に課題があるため、現在の位置や施設のまま八幡台小学校区の一部を編入するのは好ましくありません。

そこで、八幡台小学校区と波岡小学校区に接する（仮称）大久保小学校予定地の活用が考えられます。

八幡台小学校は現在適正規模校、波岡小学校は小規模校であり、両校の今後の児童数の推移をみれば、（仮称）大久保小学校予定地に新たに小学校を設置する必要はないものと思われれます。したがって、八幡台小学校または波岡小学校のどちらかを移転することとなりますが、八幡台小学校の学区の一部を波岡小学校に編入する必

要があることから、八幡台小学校の移転では解決策にならないと考えます。

波岡小学校を（仮称）大久保小学校予定地に移転すると、人口急増地区である羽鳥野地区の一部を移転後の波岡小学校区に編入することができ、これによって八幡台小学校の大規模化を防ぎ、なおかつ波岡小学校の適正規模を確保するとともに、波岡小学校の通学面と施設面の課題も解消できます。

（「シミュレーションB」参照）

以上のことから、八幡台小学校については、波岡小学校を（仮称）大久保小学校予定地に移転し、羽鳥野地区の一部を波岡小学校区に編入すべきであると考えます。

## ●波岡小学校

波岡小学校は、現在11学級の小規模校ですが、今後の児童数の推移をみると、やや増加した後、減少傾向と予測され、平成22年度から12学級で適正規模となった後、平成27年度に再び11学級の小規模校となることが見込まれます。

学校は、学区のやや南西部に位置し、国道127号バイパスと片側1車線の狭い市道に接しているため、通学の安全性の確保が大きな課題となっています。

また、建物敷地と運動場に借用地があるという課題もあります。

また、児童が畑沢中学校と波岡中学校に分かれて進学しており、一つの小学校から二つの中学校へ進学している状況です。

そこで、隣接する小学校との通学区域の変更を検証しましたが、木更津第二小学校、鎌足小学校、請西小学校との通学区域の変更は、地域特性に配慮すれば難しいと考えられます。

畑沢小学校とは、平成18年度に行われた畑沢小学校の大規模化による通学区域の変更において、畑沢及び港南台地区等の一部を編入した経緯があるので、更なる変更は難しいと考えます。

八幡台小学校との通学区域の変更は、前述のとおり、八幡台小学校が大規模校となる見込みのため、規模の適正化には有効と考えられます。

ただし、ただ編入するだけでは、通学面と施設面の課題が残ります。これらを解消するためには、波岡小学校区の東端に位置しているものの（仮称）大久保小学校予定地への移転が考えられます。

波岡小学校区内の人口集中地区であるシーアイタウンと八幡台小学校区の羽鳥野地区は、現在は一体となった市街地を形成しており、この地域の中心に（仮称）大久保小学校予定地があるので、羽鳥野地区の一部を移転後の波岡小学校区へ編入することは自然であり、こうすることにより、波岡小学校の適正規模を確保し、八幡台小学校の大規模化を回避するとともに、人口集中地区への学校の適正配置が可能となります。

ここで、波岡小学校を移転する場合においては、地域コミュニティとの整合を図るという観点から、平成18年度に行われた畑沢小学校の大規模化による通学区域の変更により畑沢小学校区から波岡小学校区に編入された地域を、畑沢小学校区に戻すことについても検討する必要があると考えます。

この場合、一つの小学校から一つの中学校へ進学することが可能となります。なお、実施の時期等については、地域への十分な配慮が求められることは言うまでもありません。

以上のことから、波岡小学校は、将来的には（仮称）大久保小学校予定地への移転を検討すべきであると考えます。移転に際しては、八幡台小学校区の羽鳥野地区の一部の編入を併せて行う必要があります。

また、平成18年度に波岡小学校区に編入された地域を、畑沢小学校区に戻すことについても検討する必要があると考えます。



## ■波岡中学校

波岡中学校は、現在8学級の小規模校です。今後の生徒数の推移をみると、増加傾向と予測されるものの、小規模のまま推移するものと見込まれます。

人口が急増している羽鳥野地区を学区に含んでいることから、更なる生徒数の増加が想定されるものの、適正規模を上回ることはないと考えられます。

なお、平成32年度に12学級となる見込みであり、予測を上回る生徒数の増加があったとしても、大規模化することはないものと考えられます。

通学距離や通学の安全性、施設の状況に特に問題はないことから、波岡中学校については、現状維持としてやむを得ないものと考えます。

よって、波岡中学校区内に存する（仮称）八幡台中学校予定地は、活用の可能性は低いものと判断します。

（「シミュレーションC」参照）

## （2）市街地・新市街地以外の13校

以下の小中学校については、今後審議し、平成23年2月を目処に別途答申いたします。

- 岩根中学校
- 高柳小学校
- 岩根西中学校
- 岩根小学校
- 鎌足中学校
- 鎌足小学校
- 金田中学校
- 金田小学校
- 中郷中学校
- 中郷小学校
- 富来田中学校
- 馬来田小学校
- 富岡小学校

## （3）学校予定地の利活用

市街地・新市街地の小中学校の適正配置に向けての方策について、学校ごとに検討した結果、学校予定地の利活用については以下のとおりです。

### ○（仮称）桜井小学校予定地

活用の可能性は低いものと考えます。

### ○（仮称）真舟小学校予定地

請西小学校の大規模化の解消及び真舟地区の児童の通学の安全性の確保並びに木更津第二中学校と太田中学校の適正配置のため、請西小学校区の南部と、真舟地区を学区とする小学校の建設用地として活用すべきであると考えます。

### □（仮称）真舟中学校予定地

木更津第二中学校と太田中学校の適正配置のため、（仮称）真舟小学校予定地に小学校を新設することを前提としたうえで、この小学校の学区と木更津第二小学校区を学区とする木更津第二中学校の移転先用地として活用すべきであると考えます。

□（仮称）畑沢中学校予定地

活用の可能性は低いものと考えます。

□（仮称）大久保小学校予定地

波岡小学校の児童の通学の安全性の確保及び施設面の課題の解消並びに八幡台小学校の大規模化を防ぐため、羽鳥野地区の一部も学区とする波岡小学校の移転先用地として活用すべきであると考えます。

なお、将来的には、地域コミュニティとの整合を図るという観点から、平成18年度に行われた畑沢小学校の大規模化による通学区域の変更により波岡小学校区に編入された地域を、畑沢小学校区に戻すことについても検討する必要があると考えます。

□（仮称）八幡台中学校予定地

活用の可能性は低いものと考えます。